

The National Museum of Western Art  
Volunteer Activity Report 2020-2024

2020<sub>年度</sub>

|

2024<sub>年度</sub>

国立西洋美術館  
ボランティア  
活動報告

目次	ごあいさつ	01
	国立西洋美術館ボランティア 2020年度～2024年度までの活動概要	02
	ボランティア・スタッフについて	03
	スクール・ギャラリートーク	04
	ファミリープログラム どうぶじゅつ	12
	美術トーク	20
	建築ツアー	28
	研修	36
	2023年度 六期ボランティア・スタッフ募集	37
	公式研修	40
	コロナ禍・長期休館の活動について	42
	「お茶っこ」・「お茶っこ+(プラス)」	43
	コロナ禍・長期休館を振り返って	45
	自主的な活動	
	自主研修	48
	図書委員、ボランティアアート	49
	金曜ナイトトーク	52
	ボランティア・スタッフ名簿、教育普及室スタッフ名簿	54
	編集を終えて	56

## ごあいさつ

田中 正之 | 国立西洋美術館長

国立西洋美術館ではボランティア制度を導入して以来、2024年度で20年が経ちました。2019年までの活動については4冊の報告書を発行してきましたが、本報告書は2020年度から2024年度の5年間の活動をまとめています。

本報告書で取り上げる2020年度から2024年度の間には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動が制限された時期がありました。活動ができなかった期間には、新たに Zoom を活用して館とボランティア・スタッフ、そしてボランティア同士のつながりを保ちながら再開に向けて準備を進め、再開後もしばらくは定員を少なくするなど実施方法を変更して各プログラムを継続してきました。また、この間、メンバーの入れ替えがあり、2023年度で四期スタッフが6年の任期を終え、2024年度から六期が養成研修を経て活動を始めました。

本報告書には、各プログラムの実施実績と併せて、コロナ禍で取り組んだこと、そして現在活動する五期、六期のボランティア・スタッフやプログラムに参加くださった方の声が含まれています。オンラインでコンテンツを一度に多くの人に届けることが容易にできるようになった近年においても、それと並行して、人と人との関わりの中で広がり、深まる学びが美術館には存在します。ボランティア・スタッフの活動はまさに後者と言えますが、その学びの姿を、実施プログラムの記録と関わってくださった方々の声とを通じて形に残すことを本報告書は目指しています。

制度導入からの20年、当館の教育プログラムの中核をボランティア・スタッフが担ってくださった、と言っても過言ではありません。子連れの家族を対象とした「どうぶじゅつ」、学校に向けた「スクール・ギャラリートーク」、一般向けに常設展の作品を紹介する「美術トーク」、2016年に世界遺産に登録された本館と前庭を案内する「建築ツアー」と、対象・内容の異なる複数のプログラムを通年で継続的に実施し、多くの方にご参加いただいたことは、歴代のボランティア・スタッフが熱意をもってこれらの活動を支えてくださったからに他なりません。この場を借りて、ボランティア・スタッフの皆様のご尽力に心よりお礼申し上げます。そして、引き続き、ボランティア・スタッフが来館者との懸け橋となって美術館での楽しみを分かち合う存在でいてくださることを期待すると同時に、当館での活動が自身にとっても学ぶ機会となることを願っています。

# 国立西洋美術館ボランティア 2020年度～2024年度までの活動概要

## ～ボランティア活動の広がり～

飯田 有季 | 国立西洋美術館 教育普及室 ボランティア・コーディネーター

国立西洋美術館ボランティア活動報告は、本書で5冊目の発行となります。2004年度のボランティア制度開始以来4年ごとに発行していた活動報告ですが、本書においては2020年度～2024年度の5年分の活動を記録しています。

この5年の間には、新型コロナウイルス感染症拡大によるプログラムの中止や臨時休館、そしてコロナ禍以前から予定されていた館内施設整備のための長期休館がありました。コロナ禍・長期休館中の記録は42頁に詳しくまとめていますが、この期間においてはプログラムの実施などの通常のボランティア活動を休止せざるをえなくなりました。予定されていた長期休館に先立ち、新型コロナウイルス感染症拡大による予期せぬ活動中止が重なったことで、特にコロナ禍においてはボランティア・スタッフも教育普及室スタッフも、先の見えない不安、そして活動できないもどかしさを感じていたことが当時の記録から読み取れます。

一方で、この休止期間で、ボランティア・スタッフの存在がいかにかけがえないものか再確認し、彼らと共にどのような美術館体験を提供したいのか、教育普及室スタッフが見つめ直す機会にもなりました。多くの制限がある中でもできることを検討し、慣れない操作に戸惑いながらオンライン交流会を開催したり、時にはボランティア・スタッフと教育普及室で内容を相談しながらプログラム再開を見据えてオンライン研修で研鑽を積んだり…こうしてボランティア・スタッフとの二人三脚で歩みを止めなかったことが現在の活動に繋がっているのです。

コロナ禍が終息しつつある今、ボランティア・スタッフによるプログラムはコロナ禍以前と同水準まで再開することができています。美術や建築に関する知識だけでなく、多様化している来館者とのコミュニケーションの方法をも学び続けるボランティア・スタッフの姿はエネルギーに満ち溢れ、ほんの数年前まで活動休止していたことが信じられないほどです。長期の活動休止という困難を乗り越え、変わらぬ熱意で西洋美術館を支えてくれるボランティア・スタッフには感謝の気持ちでいっぱいです。そして、これからも美術館と来館者をつなぐ架け橋としてあるとともに、ボランティア・スタッフ自身も楽しみながら活動できることを何よりも願っています。

2026年3月

## 国立西洋美術館のボランティア・スタッフとは

美術館と来館者の架け橋となる存在です。美術館が主催する教育プログラムにて、その目的を共有し、実施の担い手となって活躍しています。さまざまなプログラムの継続的な実施に大きく貢献しています。

### 活動内容

ボランティア・スタッフによるプログラムは、主に下記3つの担当グループに分かれて行っています。

担当A	スクール・ギャラリートーク 2005年度～ (主に学校団体を対象とした常設展の作品のギャラリートーク) ファミリープログラム どうようびじゅつ 2004年度～
	人数：28名(2020-2021年度) 28名(2022年度) 27名(2023年度) 23名(2024年度)
担当B	美術トーク 2009年度～ (主に大人を対象とした常設展の作品のギャラリートーク)
	人数：15名(2020-2021年度) 13名(2022年度) 13名(2023年度) 13名(2024年度)
担当C	建築ツアー 2009年度～ (10歳以上を対象とした本館・前庭に関する建築解説プログラム)
	人数：17名(2020-2021年度) 16名(2022年度) 16名(2023年度) 15名(2024年度)

※人数は各年度3月末時点のボランティア・スタッフ登録者数

### 活動の任期

ボランティア・スタッフは3年ごとに募集・採用しています。候補生として採用されてから正式に活動を開始するまで、約半年の養成研修を受講します。原則、任期为6年と定めていますが、四期、五期については任期中に長期休館があったため7年間としました。

四期ボランティア・スタッフ
研修期間：2016年6月～2017年3月
活動期間：2017年4月～2024年3月末
五期ボランティア・スタッフ
研修期間：2019年6月～2020年2月
活動期間：2020年4月～2027年3月末予定
六期ボランティア・スタッフ
研修期間：2023年6月～2024年2月
活動期間：2024年4月～2030年3月末予定

# スクール・ギャラリートーク

課外活動や部活動などの学校活動で来館する子どもたちを対象とした、常設展示のギャラリートークです。2005年度から継続して行われています。

トークでは、子どもたち一人一人の思いや発言を大切にするため、10名以下の少人数のグループに分かれて作品を鑑賞します。担当Aのボランティア・スタッフは子どもたちの主体性を尊重しながら対話を重ね、作品をよく見て、感じたことや考えたことを自分の言葉で表現できるようにさまざまな手助けをします。常設展示の中から、計3点の作品を中心に鑑賞します。

**実施日** | 休館日・祝日を除く火曜日～金曜日

**所要時間** | 45分程度（集合、挨拶などを含めると約1時間）

**参加方法** | 事前申込制

**定員** | 原則60名まで



## トークのコースを一部紹介！

ジャンルの異なるさまざまな作品を子どもたちが楽しめるよう、また、見る作品が複数のグループで重ならないよう作品を組み合わせ、最大8コースを設けています。

### Aコース

- ① オーギュスト・ロダン《カレーの市民》1884-88年（原型）、1953年（铸造）
- ② ダフィット・テニールス（子）《聖アントニウスの誘惑》
- ③ フェルナン・レジェ《赤い鶏と青い空》1953年

### Bコース

- ① エドワールト・コリール《ヴァニタス―書物と髑髏のある静物》1663年
- ② ピエール・ボナール《働く人々》1916-20年頃
- ③ エミール＝アントワーヌ・ブールデル《瀕死のケンタウロス》1911-14年

### Cコース

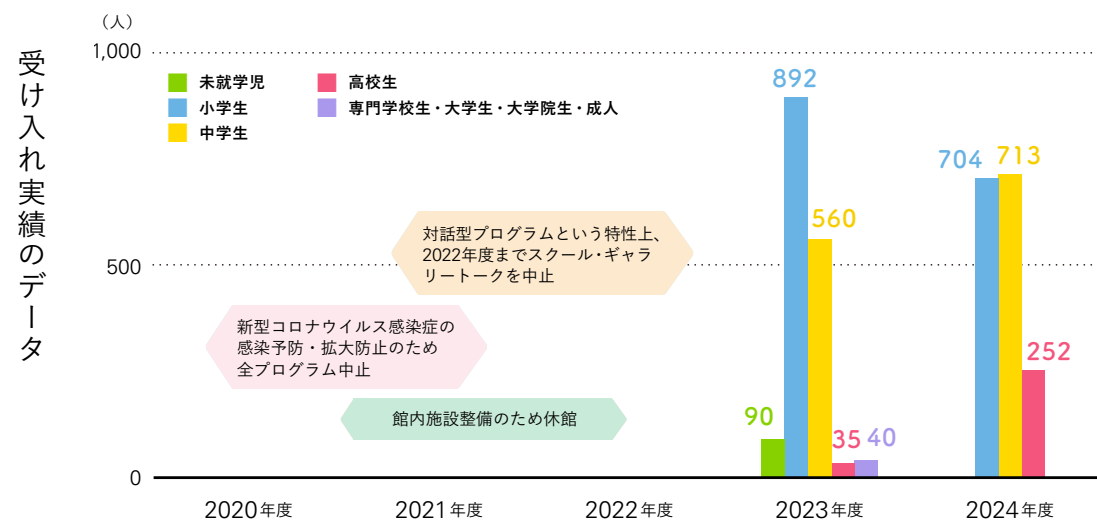
- ① オーギュスト・ロダン《地獄の門》1880-90年頃/1917年（原型）、1930-33年（铸造）
- ② ジョルジョ・ヴァザーリ《ゲッセマネの祈り》1570年頃（?）
- ③ ポール・シニャック《サン＝トロペの港》1901-02年

※コース作品は展示替えによって変わります  
また、目的や滞在時間、参加者の年齢にも配慮して、ギャラリートークで扱う作品を決定します

## 2020年度以降の傾向

2020年度から、対面でのスクール・ギャラリートークは新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、また館内施設整備による休館の期間も重なり、2022年度まで中止しました。対話型のプログラムという特性上、近距離での会話を控えていたコロナ禍において実施が難しい状況が続いていましたが、2023年度に感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したためようやく再開しました。申込の傾向としては、幼稚園・保育園や小学校からのものが減少する一方で、中学校・高校の申込が増加しており、さらに特別支援学校からのお問い合わせもあります。プログ

ラム利用が初めての先生だけでなく、毎年ご利用いただく学校もあります。プログラム利用の目的は、図工や美術の鑑賞教育の一環、修学旅行や社会科見学、美術部の活動など、多岐にわたります。基本的には3作品で45分間のトークを行います。事前に学校から内容やスケジュールの要望があった場合は作品数を教育普及室スタッフが調整するなど、授業や学校行事の目的に沿って相談をしています。担当のボランティア・スタッフはそれらのことを踏まえ、多様な要望に対応しています。



## 2020年度～2021年度

実績なし

## 2022年度

4月1日～8日 館内施設整備のため休館

4月9日 リニューアルオープン

6月15日 スクール・プログラムのうち、展示室での対話を含まないもののみ再開  
(教育普及室スタッフが先行し、ボランティア・スタッフ有志がサポートを務める)

## 2023年度

参加者数 1,617名 (46件)

4月 スクール・ギャラリートーク再開  
・コース：最大6コース ・グループ人数：最大6名 ・トーク作品：2作品 サポート担当を新設して再開。

6月 コースを最大8コースに、グループ人数も最大8名に変更し、トークも3作品で実施。  
(同年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したため)

未就学児：90名(2件)、小学生：892名(19件)、中学生：560名(21件)、高校生：35名(3件)、専門学校生・大学生・大学院生・成人：40名(1件)  
※全体のうち、特別支援学校：43名(2件)

## 2024年度

参加者数 1,669名 (41件)

未就学児：0名(0件)、小学生：704名(15件)、中学生：713名(17件)、高校生：252名(9件)、専門学校生・大学生・大学院生・成人：0名(0件)

## おすすめスクール・ギャラリートーク作品

当館常設展の作品の見どころや魅力について、参加者の反応も含めてスクール・ギャラリートークを担当する五期・六期ボランティア・スタッフへ尋ねてみました。

ダフィット・テニールス(子)

### 《聖アントニウスの誘惑》

油彩、カンヴァス



荒野の廃墟に角の生えた者たちが群がり、髑髏や宙を飛ぶ魚までいます。グラスを持つ女性がおじいさんを仲間にしようと誘っています。彼女の白い服の下から覗く足も見つけ、怪物の世界に引き込まれていく作品です。子どもは生き物が怪物にされた話を想像しますが、「おじいさんは怪物の仲間にならないよ」と、彼の表情や仕種、机上のモチーフから力強く発言し、皆が頷く場面もありました。(S.Y.)

「絵ってよく見ると面白いね」《聖アントニウスの誘惑》を見た子どもの声です。最初はへんてこりんな姿をした怪物たちが気になります。でもよく見ると若い女性の足は…すると「どうしてこれが『誘惑』なの？」とタイトルが気になる子どもも。宗教的題材を扱っており、絵画鑑賞では細部まで見て気になることを見つけてという子どもたちの行動を引き出してくれる作品です。(M.C.)

アンソニー・ヴァンダイク・コブリー・フィールディング

### 《ターベット、スコットランド》

油彩、カンヴァス 松方コレクション



スコットランドの小さな村ターベットの水辺の風景画。小学校5年生との鑑賞の時、「もしこの絵の中に入れたら、何をしてみたい？」と聞くと、「キャンプをしてみたい」「小石で水切りをしてみたい」「お城に入って探検してみたい」「のんびり風景を眺めていたい」など次々に話してくれた。みんなで風景に入り込み、光を浴びているような感覚になる、不思議な魅力のある作品だ。(S.K.)

ヨース・ファン・クレーフェ

### 《三連祭壇画：キリスト磔刑》

16世紀前半 油彩、板



初めはこの作品から感じる宗教色に子どもたちがどんな反応を示すか不安でした。けれど人物一人ひとりをよく見ていくとポーズや服装から心情や役割、状況を読み取ることができます。背景には広大な景色が細かく描かれていてその場所がどんな場所なのか想像が広がります。子どもたちが発見の連続でどんどん作品世界の中に入っていき様子がわかり、いつもあつという間に時間が経ちます。(O.K.)

アンゲリカ・カウフマン

### 《パリスを戦場へと誘うヘクトール》

1770年代 油彩、カンヴァス

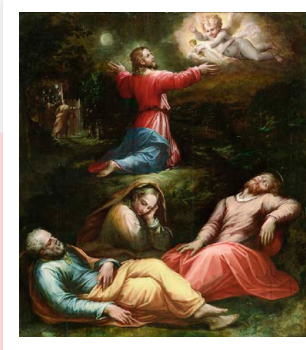
「パリス、そなたの恋のせいで攻められている。共に戦え。弓の名手よ、今一度弓を取れ!」「兄上、戦は破壊と憎しみしか生みません。我が城壁は鉄壁です。平和を!」「ヘクトール様。この者たちの幸せをこのままに!」(ホメロスの叙事詩より)これは鑑賞者のみなさんの声でもあります。現代にも通じる様相です。ホメロスの叙事詩を知らなくても作品を楽しめます。知っていれば、さらに深く味わえます。(S.K.)



M字形に並び光彩を放つ3人は誰?古代の王宮で武将は厳しい目を若者に向け外を指さし戦場へ誘うが、鑑賞者は若者の体が優美な衣装の女性を向きためらっていることに気がつく。3人の感情が入り混じる。いずれも女性的な印象を与える容貌が特徴で、平和への希望を秘めているのかもしれない。やがて大きな木馬を城壁の中に引き入れてしまい、厳しい結末を迎えるとも知らずに。(N.M.)

ジョルジョ・ヴァザーリ 《ゲッセマネの祈り》

1570年頃(?) 油彩、板

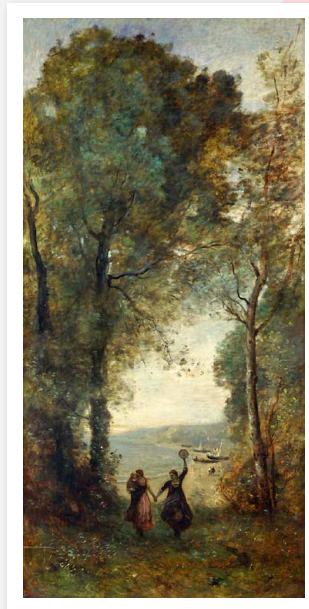


聖書の中で、《ゲッセマネの祈り》の場面が一番好きだ。私のやってきたことは間違いだったのか、煩悶するキリストは人間らしく、それでいて最後に運命を受け入れる姿は崇高で感動的。日本で、16世紀の作品、しかもヴァザーリが見られるという奇跡も相まって自然と手を合わせたくなる。スクール・ギャラリートークでは、兵士を連れたユダに気付いた子どもたちのハッとした表情が印象深い。(S.M.)

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー

《ナポリの浜の思い出》

1870-72年 油彩、カンヴァス



長期休館中にオンラインで初めて練習した絵です。絵を拡大したりしてとても細かく見た記憶があります。表情が読み取れないほど小さく描かれているのになぜか楽しく温かい雰囲気を感じさせる二人の女性、海へと視線を誘う構図、夢か現か見まごうような大きい木立など話題が尽きませんでした。作家にとって思い出の絵ですが私にとっても思い出の絵です。(I.M.)

コロナ禍に、研修の一環として、ボランティアの仲間たちとオンラインで鑑賞した作品です。人物、樹木、背景の浜辺など、あらゆるモチーフについて様々な意見が出て、ひとりでは気付けない発見もあり、アドレナリンが出るような楽しい時間を過ごしました。作品が心に残るのは、本物を前にした時だけではない、どの様に作品と向き合ったかが大切であることを知ることができました。(F.Y.)

オーギュスト・ロダン 《カレーの市民》

1884-88年(原型)、1953年(鋳造) ブロンズ

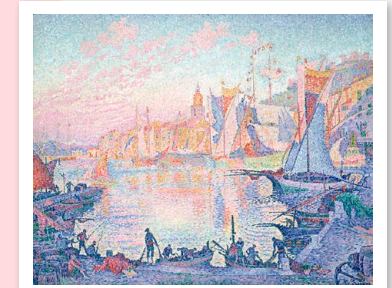


撮影: ©上野則宏

首に縄を巻かれ苦悩する人々を最初は罪人だと言っていた子どもたちが大きな鍵を発見する。鍵を持ってどこへ行く?大きな門の鍵かな?戦争?人質かもしれない!と見方が変わる。史実を伝え、自分たちがこの6人だったら?と問いかけると作品との距離がグッと縮まった。なぜ、1人の英雄像ではなく絶望と苦悩を抱く6人の群像として表現し、低い台座を望んだのか、ロダンの意図も考える。(H.K.)

ポール・シニャック 《サン＝トロペの港》

1901-02年 油彩、カンヴァス



初スクール・ギャラリートークでのこと。小学生、最初はつまらなそうにちょっと斜に構えて発言を渋っていました。最後の作品《サン＝トロペの港》を前にした途端、彼は目が離せなくなっていました。「この絵の中に自分が居るとしたら?」と聞くと、恥ずかしそうに「船の中...寝てる」と。絵の中に生きている自分を想像していたのでしょうか、最後までキラキラした目で眺めていたのが忘れられません。(O.C.)

ジョアン・ミロ 《絵画》

1953年 油彩、カンヴァス 山村家より寄贈



© Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 C5156

生徒たちは最初、何が描かれているの?子どもの絵みたい、本当に上手いの?と戸惑いながらも会話中、赤い玉は太陽か、深い穴の奥のマグマだ、物ではなく強い感情を表しているなど、自由な解釈が次々に生まれてきました。私には黒いうねった線はト音記号にも見え、絵全体に広がる音楽が感じられるのが素敵です。ミロの故郷や当時の世界情勢なども考えてみると、楽しみ方の幅も広がるでしょう。(S.E.)

# ボランティアの現場から

スクール・ギャラリートークの魅力やプログラム中の印象的な出来事について、ボランティア・スタッフに尋ねました。

「ここにあるものは本物ですか？」中高生のスクール・ギャラリートークをしていると時々聞かれます。「本物です」というと、まず驚き、そして楽しそう。初めはその質問に戸惑いましたが、本やテレビでみたり聞いたりした画家の作品が実際に目の前にあるのは特別なことだとあらためて実感しました。その絵を作った作家さんと一緒に空間にいられるという経験、一緒に大事にしていきたい。(U.Y.)



ある中学生からはほとんど発言がなかった。しかし好きな作品を聞いたところ、驚くほどよく観ていることがわかった。一人の女子が、「『地獄の門』がよかった。一つ一つの小さな彫刻が、それぞれつながっているように感じられて、とても印象深く残っている。」とのこと。鑑賞者の発言が少ない、とひどくがっかりする必要はない。作品を真剣に観ているまなざしも感じとりたく、今は考えている。(S.K.)

小学5年生を担当したときのこと。裸の彫刻作品に反応した児童からストレートな質問がありました。「なんで裸なんですか？」私は児童たちに逆質問「どうしてだと思う？」一同鎮まる中、質問者とは別の児童が「筋肉からその人の気持ちとか伝わってくるから、服を着るとそれ隠れちゃう」と答えてくれました。私自身もハッとさせられましたし、こんな答えを聞くことが出来てうれしくなりました。(O.K.)

今日はどんな子どもたちと出会えるかな？正解はない、よく見て感じたことを話してね、何を言っても大丈夫、と伝えて作品と一緒に鑑賞している。見て感じたことを言葉にして表すことは難しいが、美術にはさまざまな見方があることや、お互いの話を聴く楽しさを感じてくれたら嬉しい。子どもたちとの対話から私も学ぶことが多い。スクール・ギャラリートークが、また美術館を訪れるきっかけとなりますように。(S.K.)



始まる前になるべくほぐれるようにお話をしてからいざ展示室へ。言葉のキャッチボールや子どもたちのひそひそ話を通して徐々に鑑賞が深まる過程がスリリング。額縁の外まで想像した発言など、予想外の言葉を耳にしたとき新鮮な驚きとふっと感覚が広がるのを感じます。スクール・ギャラリートークは鑑賞型対話の時間ではないか。別れ際「楽しかったです」と一言いってくれたときは、思いがけず心も温まります。(N.M.)



# 参加者の声

## 児童・生徒の声

作品はみればみるほど興味がわいてきます。休みの日にも美術館に行って作品をじっくりみたいと思いました。(小学生)

ぱっと見て感じなかったことも、お話しであらためてみると、さらに作者さんの想いが伝わってきて、作品一個一個がとてもおく深く思えて、すてきなと思いました。(小学生)

私は初めて美術館に行ったけれど、一つの絵からいろいろ考えだすのがとても面白かったです。(小学生)

担当の方のお話やグループでの意見、作品の横の説明などと合わせると、同じ作品でも新たな発見がありました。(中学生)

自分の考え方で見方などが変わるからおもしろいと思いました。(小学生)

担当の方との話を通じて、作品をあらゆる角度から見ることが出来ました。今まで一つの作品をじっくり見る機会はなかったので、いい経験になりました。(中学生)

(後日送付いただいた感想文・手紙より抜粋)

## 先生の声

当日は、子どもたちが緊張感のあるスキッと空気に包まれつつ、スタッフの皆さんに豊かに見方を広げていただき、大変満足して帰ってきました。翌日の放課後、図工室掃除に来た児童に改めて感想を聞くと、「私、絵とか見ても楽しめるのか不安だったんですけど、めっちゃ楽しかったです！スタッフさんがいろいろ聞いてくれて、すごくいろいろ想像できて楽しかったです」と話していました。(小学校の先生)

時間と人員に余裕があれば、複数のプログラムを組み合わせて実施できると、より充実した体験になると思う。(中学校の先生)

それぞれがどのように作品を捉えたのかを互いに述べ合う対話型鑑賞が新鮮でした。それぞれ違った視点で捉え、ひとりだけで鑑賞していたら気づかないような新たなことに気づかされました。(中学校の先生)

事前指導では、あまり美術館などを訪問したことがない様子で、楽しめるかなあ。と不安そうに話していたのですが、当日は満喫している姿がありました。初めのうちはなかなか言葉で表現することが難しそうにしている生徒も、ボランティア・スタッフの方が全てを受け止め、肯定した上で解説してくれ、だんだんと作品を見る楽しさや探求する面白さに気がついていく様子が見られました。言葉で表現し伝え、共感してもらええる機会はとても貴重なのだと改めて感じ、教員も学ばせて頂きました。また、プログラム終了後も1時間近く見て回っている姿があり、芸術に触れる楽しさを実感できている様子が見られました。(高校の先生)

プログラム中、普段自分の考えをあまり話さない生徒が、考えを話したり、質問する様子がありました。また、保護者から、自宅で今回鑑賞した作品について、家庭で話題にあげていた生徒がいたと伺いました。(中学校の先生)

(実施後のアンケートより抜粋)

6～9歳の子どもと保護者を対象とした、常設展を家族と一緒に楽しむ2時間のプログラムです。ボランティア制度を導入した2004年度から継続して行われています。

参加者による発見や気づきを大切に作品鑑賞と創作などのアクティビティがセットになっているのが特徴です。ボランティア・スタッフの進行のもと展示室で絵や彫刻を見たり、大人も子どもも一緒になって創作したりと、作品との関わりを深めながら、家族や参加者同士のコミュニケーションを促し、大人と子ども両方が楽しめる内容を心がけています。

スクール・ギャラリートーク担当Aのボランティア・スタッフがこのプログラムに関わります。有志の企画担当者を募って教育普及室スタッフとともに内容を考えてきました。

実施時期 | 春期（4～5月）と秋期（10～11月）の第2・4土曜日  
 時間 | 午前（10:00～12:00）／午後（14:00～16:00）  
 参加方法 | 事前申込制（先着順）  
 定員 | 各回15名（大人含む）

### 企画担当ボランティア・スタッフの役割



企画担当のボランティア・スタッフは、教育普及室スタッフとともにテーマやプログラム名、鑑賞作品の選定や創作活動に至るまで、内容の全てを検討します。準備期間は約3ヶ月に及び、打ち合わせ回数が10回を超えることもあります。

また、プログラム開催の1週間～2週間前には、企画担当者がプログラム実施当日の運営を担当する他のボランティア・スタッフに声をかけ、トライアルを行います。トライアルは、企画担当者の進行のもと、当日運営担当のボランティア・スタッフ自身が参加者になったつもりで体験し、そこで気づいたプログラムの改善点などを話し合っ最終調整を行う場です。プログラムを作り上げるうえで「参加者の視点」で検証する大切なプロセスでもあります。このトライアルを通して、当日の運営を担当するボランティア・スタッフも内容や手順を確認し、安心してプログラムに臨むことができます。

## 2020～2024年度のプログラム一覧

### 2020年度以降の傾向

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、企画担当ボランティア・スタッフとともに準備をしていた2020年度春期の企画は中止を余儀なくされました。その後、館内施設整備による長期休館期間を経て、感染予防を講じたうえで2022年度秋ようやく再開となりました。2022年度秋の「さがそう えがこう みんなの絵がおーどんな気持ちがかくれてる？」では、コロナ禍で日常生活をマスク着用で過

すこととなり、表情が見えないことの子どもへの影響が心配される中、あえて作品の表情に着目したプログラムを企画しました。

再開後はすべての開催回・募集に対して定員の申し込みがあり、人気の高さが伺えます。また、リピーターも多く、兄・姉が対象年齢を終えた後は弟・妹が参加したりと、継続的に参加する家族もいます。

日程	プログラム名	
中止 2020年度 春期	アートリンピック 西美で見つけよう！君だけの競技	
2022年度 秋期	さがそう えがこう みんなの絵がおーどんな気持ちがかくれてる？	
2023年度	春期	セイビの彫刻 ーどこで・どこから・どこをみる？
	秋期	セイビパレット 色の世界へでかけよう
2024年度	春期	ようこそセイビの森へーわたしの樹をえがこう
	秋期	ソラ！みてごらん！



# さがそう えがこう みんなの絵がお

—どんな気持ちがかくれている？

マスク着用が日常だったコロナ禍に、あえて作品の中の人物の表情に着目したプログラムです。最後はフェイスシールドに自分の好きな表情を作りました。

企画担当者	清水悦子、内藤知子、野村和子
実施日程	2022年10月15日、10月29日、11月5日、11月19日
実施回数	8回(各日2回)
参加者数	99名

鑑賞作品  
イサーク・ファン・オスターデ《宿屋の前の旅人たち》ほか

## Step 1 (挨拶、テーマ・プログラムの流れの説明) 導入

「コロナ禍でマスクをつけることが多くなりましたね。友達や家族がどんな表情をしているか、気になることはありませんか？」  
「みなさんはマスクの下でどんな表情をしていますか？」

## Step 2 鑑賞

講堂のスクリーンで絵を1点見ます。「絵の中にはどんな人がいる?」「どんな表情をしている?」絵の中の人物の表情を読み取り、その気持ちを想像しながら鑑賞します。



## Step 3 アクティビティ

展示室へ行き、ワークシートを使って家族ごとに作品を鑑賞します。作品の中の人物がどんな表情をしているか想像しながら、実際の作品を見に行きましょう!



## Step 4 創作

講堂に戻り、展示室で見た作品を振り返った後、創作に入ります。フェイスシールドに自分の好きな表情を作ってみましょう。マジックで顔を描いたり、毛糸やテープ、色紙で飾り付けをします。



### 企画担当 ボランティア・スタッフの声

コロナ禍での3年ぶりの開催に感激! 講堂の大スクリーンで鑑賞した《宿屋の前の旅人たち》は細部まで拡大し作品にどっぷり没入、《ナポリの漁師の少年》や《聖母子》のマスク姿に会場がザワつき、『フェイスシールド』を使った工作では表情豊かな作品がたくさん生まれ…。規制の中でも新発見がたくさんあり、お客様やスタッフの満面の笑みが、マスク越しにひしひしと伝わってきました! (N.T.)

### 参加者の声

#### 子ども

● やどやのまえのたびとたちがすきでした。どうしてすきかという、いろんなひとやどぶつのもちがわかっておもしろかったです。

● えにはいろいろなきもちが、ひょうじょうがあるのが学べました。

● こんなにじっくり、作品を見て、一人一人の気持ち考えたことは、なかったので楽しかったです。作品(工作)も作れて、楽しかったです。

#### 大人

● 美術館に行く機会がなかったので、子どもが興味をもって見るかわからなかったのですが、興味をもって見る工夫をいただいて楽しむことができました。

● 子どもをただ美術館につれていっても、楽しめないだろうと思っていたので、作品をさがしながら、表じょうを見る、とポイントをしぼって見ることによって、とても楽しんでいておどろきました。

● 同世代の他のお子様方と意見をかわしたり、専門家の方やボランティアの方にリードしていただきながら美術作品を身近に感じる事が出来ました。

# セイビの彫刻 —どこで・どこから・どこをみる？

「どこ」をキーワードに彫刻をさまざまな視点から鑑賞するプログラムです。作品を見た後、《考える人》をコラージュした立体カードを作りました。

企画担当者	石川佐知子、鈴木由紀子、関恵子、原田清美
実施日程	2023年4月15日、4月29日、5月6日、5月20日
実施回数	8回(各日2回)
参加者数	107名

鑑賞作品 オーギュスト・ロダン《考える人》(拡大作) / オーギュスト・ロダン《説教する洗礼者ヨハネ》 / オーギュスト・ロダン《うずくまる女》 / ジャン＝バティスト・カルポー《ナポリの漁師の少年》 / エミール＝アントワーヌ・ブールデル《瀕死のケンタウロス》

## Step 1 (挨拶、テーマ・プログラムの流れの説明) 導入

「今日は“彫刻”に注目して作品を見ましょう。」

## Step 2 鑑賞

「どこが気になる?」「どこから見るのが好き?」「どこ(どんな場所)にある?」など「どこ」をキーワードに鑑賞し、彫刻の多様な見方を楽しみます。



## Step 3 アクティビティ

作品マップにある彫刻を家族と一緒に見ます。マップにある「彫刻をたのしむヒント」も参考にして、ゆっくりと展示室を見て回ります。

## Step 4 創作

展示室で見た彫刻を振り返り、《考える人》をコラージュした立体カードを作ります。《考える人》がどこにいたら素敵に見えるか、想像してみましょう。



## Step 5 発表

「あなたの《考える人》はどこにいる?」という問いかけから、作った作品の工夫したところ、気に入っているところを発表します。



### 企画担当 ボランティア・スタッフの声

彫刻に親しんでもらえるようなプログラムを目指しました。創作は彫刻をイメージした立体カードに案がまとまるまでが試行錯誤でした。カードに貼る彫刻の画像も、複数の方向からのものを用意しました。子どもも大人も思い思いの方向の画像を活かし、多様な作品を創造したことに驚かされました。講堂の椅子をギャラリーに《考える人》が並んだ光景は圧巻で、みな笑顔で自作を紹介してくれました。(S.Y.)

立体作品の魅力を親子で体感するプログラム。準備を重ねながら自分自身の彫刻作品の理解が深まり、鑑賞のアプローチについて考える貴重な経験となった。親子が興味深そうに彫刻の周りを巡りいろいろな発見を共有する様子や、《考える人》のいる空間を想像し楽しそうにコラージュで表現する姿に感動した。個性溢れる素敵な立体カードが作成でき、西美の彫刻にも親しめたようで嬉しかった。(H.K.)

### 参加者の声

#### 子ども

● びじゅつかんにはすごいたくさん作品があって作品の一つ一つにそれぞれちがったみりょくがあってすごいと思いました。

● このイベントの前は、あまり美術館の作品にきょうみがなかったのですが、今回のイベントでスタッフさんが色々なしつもんをしてくれたのでとてもおもしろかったなと思いました。

#### 大人

● 美術館になんとか行くことがあっても、絵は解説を見てふむふむ、彫刻は?となるのが多かったのですが、こんな楽しみ方があるんだなど大変勉強になりました。

● 美術館に連れていっても、子どもは興味なさそうにしていたのですが、スタッフの方の説明を聞き、お友達と見ることで、とても楽しく過ごすことが出来ました。

# セイビパレット 色の世界へでかけよう

色を切り口に作品の多様な表現を鑑賞するプログラムです。作品を見た後、展示室で出会った色を思い出しながらオリジナルバッグを作りました。

企画担当者 石川佐知子、向井由紀

実施日程 2023年10月14日、10月28日、11月11日、11月25日

実施回数 8回(各日2回) 参加者数 88名

鑑賞作品 アンソニー・ヴァン・ダイク《レガネース侯爵ディエゴ・フェリーペ・デ・グスマン》/ フランシスコ・デ・スルパラン《聖ドミニクス》/ クロード・モネ《睡蓮》/ ポール・シニャック《サン＝トロベの港》

## Step 1 (挨拶、テーマ・プログラムの流れの説明) 導入

「今回は“色”に注目しながら絵を見ましょう。いいなと思う色、気になる色をたくさん見つけてくださいね。」

## Step 2 鑑賞

展示室で絵を2点見ます。1点目は一見暗い色の絵ですが、よく見ると意外な色が使われていることに気づきます。2点目はたくさん色が使われている絵を見て、みんなで「色さがし」をします。



## Step 3 アクティビティ

色に注目しながら家族ごとに鑑賞し、作品の色を元にしたカラーチップ「いろ色チップ」を使って色を集めます。



## Step 4 創作

ワークショップ室では、まず展示室でそれぞれが「いろ色チップ」で集めた色を発表します。創作パートでは、展示室で見つけた色や自分の好きな色を用い、丸い型紙を使ってバッグに色を塗ります。



## Step 5 発表

全参加者で作品を披露し合い、工夫したところや作品から集めた色を紹介します。



### 企画担当 ボランティア・スタッフの声

プログラムのイメージは、頭の天辺から足の爪先まで「色に浸る」。ただ純粋に色を見つめ、色と遊ぶ。そのための仕掛けに知恵を絞った。一番の難関は、鑑賞を通じて記憶に残った色を、布バッグ上に布用クレヨンで再現する創作。しかし、参加者はこちらの心配をあっさり裏切り、それぞれの色の世界を難なく、しかも鮮やかに表現してくれた。あの時のバッグ、使ってくれているといいなあ。(I.S.)

### 参加者の声

#### 子ども

- おともだちとおしゃべりできたことがうれしかった。
- たのしかったからまたきたい。妹もつれてきたい。
- すいれんは近くと遠くで見てちがうようにみえた。
- している作品もよく見たらいろんな色があっておどろきました。

#### 大人

- 生まれて初めての美術館(娘が)のデビューでした。このような初めての出会い方をさせてあげられて嬉しかったです。
- じっくりと作品を見て、話し合う機会がもてて、とてもよかったです。同じ絵を見ても、感じるものが違うのだなあと。子どもの感想から作品を新鮮に見ることができました。
- 子どもの発言をたくさん引き出してもらって新しい一面が見られて嬉しく思いました。絵の鑑賞のほか、工作もたのしかったです。

# ようこそセイビの森へーわたしの樹をえがこう

身近なモチーフである「樹」を入り口に、作品にアプローチするプログラムです。作品鑑賞後、スクラッチボードを使って「わたしの樹」を描きました。

企画担当者 石川佐知子、岩佐高明、関恵子、内藤知子

実施日程 2024年4月13日、4月27日、5月11日、5月25日

実施回数 8回(各日2回) 参加者数 106名

鑑賞作品 ヤン・ブリューゲル(父)《アブラハムとイサクのいる森林風景》/ クロード・モネ《陽を浴びるポプラ並木》/ ジョゼフ・ヴェルネ《夏の夕べ、イタリア風景》/ ロヴィス・コリント《オークの木》

## Step 1 (挨拶、テーマ・プログラムの流れの説明) 導入

「今日のテーマは“樹”。まず外に出て、本物の樹を観察してみましょう。」実物の樹をじっくり見て、大きさや色、触り心地を確かめます。



## Step 2 鑑賞

展示室で絵を2点見ます。絵の中にある樹の幹や枝、葉の様子とあわせて周りの風景をよく見ると、この絵に描かれているのはどんな場所なのか、また季節や時間帯まで想像が膨らみます。



## Step 3 アクティビティ

絵の中に見つけた樹をスケッチします。スケッチを通して絵をじっくり見ることで、作品ごとの樹の描き方の違いに気づきます。

## Step 4 創作

ワークショップ室でこれまで見てきた樹を振り返り、そのあとスクラッチボードを使って「わたしの樹」を描きます。



## Step 5 発表

「あなたの樹はどんな樹ですか?」という問いかけから、工夫したところや気に入っているところを発表します。「みなさんの作った樹が集まって、“セイビの森”ができましたね!」



### 企画担当 ボランティア・スタッフの声

上野の森にある西美ならではの、樹に着目したプログラム。初めて美術館の外に出て深呼吸して、イチョウ(又はクスノキ)を観察。幹に触ったり、耳を当てたり…。大人も子どもも新鮮な体験でした。樹を五感で味わったことが、館内での作品鑑賞、スケッチ、創作へと想像力を膨らませるきっかけになりました。親子それぞれに気に入った樹の作品を、夢中でスケッチする姿も心に残っています。(S.K.)

参加した家族の中には本物の樹に触ったことが無い、樹の匂いを嗅いだことが無いという子どもたちもいました。実際に樹に触り、匂いを嗅いでもらって「樹ってこんな匂いがするんだ」「樹はこんなに強いんだ」と非常に感激して、帰る時にはすっかり樹のファンになっていました。やはり本物に触れて感じることは大事なことであったプログラムでした。(I.T.)

### 参加者の声

#### 子ども

- びじゅつかんでこんなにたのしいところなんだとおもいました。
- 作品を見てじぶんがとりだったらどこにとまる?や、どんなことをしているか、かんがえるところがたのしかったです。

#### 大人

- 小さな子どもが楽しく絵に触れることができ、とても貴重な体験ができました。ひとつの絵をじっくり見ることが無かったのでこういう鑑賞方法もあるんだと勉強になりました。
- 木にだけ注目して作品を観るのは楽しかった。子どもたちが楽しそうな顔でスケッチをしているのが新鮮だった。
- 観察や作品を通じてどのように見えているのか会話できたことがとても印象に残りました。また子どもがどんなことを感じているのかその言葉を通じて成長を感じました。

# ソラ！みてごらん！

空をテーマに、作品の世界に入り込んで鑑賞を深めるプログラムです。作品を見た後、羊毛フェルトを使い「自分の好きな空」を作りました。

企画担当者 中尾小絵、西田通子

実施日程 2024年10月12日、10月26日、11月9日、11月23日

実施回数 8回（各日2回） 参加者数 97名

鑑賞作品

ジョルジョ・ヴァザーリ《ゲッセマネの祈り》/  
ポール・シニャック《サン＝トロペの港》

## Step 1 導入

（挨拶、テーマ・プログラムの流れの説明）

「今日のテーマは“空”。空って何色かな？昼の明るい空もあれば、夜の暗い空もありますね。」

## Step 2 鑑賞

展示室で暗い空が描かれた絵と明るい空が描かれた絵、2点の作品を見ます。「この絵に描かれているのは昼？それとも夜？」今回のテーマである空に着目しながら、作品の世界に入り込んで鑑賞を深めます。



## Step 3 アクティビティ

「不思議な空」、「怖い空」などお題が書かれたカードを引いて、お題の空が描かれた絵を家族と一緒に探しに行きます。

## Step 4 創作

ワークショップ室で鑑賞した作品を振り返った後、羊毛フェルトを薄く広げて、色を混ぜながら「わたしの好きな空」を作ります。



## Step 5 発表

作った作品を壁に飾り、工夫したところ、気に入っているところを発表します。



## 企画担当 ボランティア・スタッフの声

「ボンヤリとハッキリとか？」「ボンヤリ→雲？」「雲→空？」…これが企画のスタートでした。どうぶじゅつは毎回0から始まります。6～9歳の子どもと保護者も年齢差0になって、同じ作品同じ創作を楽しまなければなりません。話し合いを重ね試行錯誤を繰り返し、ゴールに到達すると大きな達成感を得られます。「空を見て空を作る」プログラム。ゴールはみんなの笑顔！（N.S.）

## 参加者の声

### 子ども

- とてもたのしくて、もう一回やりたくなってきました！またきます！
- 人によってかんがえやいけんがすごちがってびっくりした。
- 初めてびじゅつ館に行ったけど、色々な絵やちょうこくがあるのを見て、また行きたいと思ったし、大きくなったら案内をする方もしたくなった。

### 大人

- 空をテーマとして鑑賞をして、子どもたちの視点が様々で、大人も興味深く思いました。大人はどうしても作品の背景などの知識から入ってしまうので、直感で感じることをうらやましく思うところもあります。
- 普段は絵の時代背景など知らないがダメだという先入観があって、解説を一生懸命読みながらめぐっていましたが、本日のイベントに参加して絵を見てただ楽しんだり、色々想像して見る楽しさを知りました。今後、子どもたちとともっと気楽に美術館に来れそうです。
- 絵を見てグループで感じたことを1人1人言うていくのがとても面白かったです。子どもたちのそれぞれの感性がとてもとてもすてきでした。制作の方もとても楽しかったです。

# ボランティアの現場から

どうぶじゅつの魅力やプログラム中の印象的な出来事について、ボランティア・スタッフに尋ねました。

鑑賞の際、子どもにとって見やすくまた絵を指で示せるように、作品のA3図版を使用した時のことです。初対面の子ども同士でしたが、図版がコミュニケーションツールにもなり、「この部分がね」「そうそう」とまるでご兄弟のように意気投合して微笑ましい光景でした。創作でも同じテーブルを囲み、楽しそうに過ごされていたことが印象に残っております。（Y.M.）

子どもたちの柔らかく自由な発想や発言に私も驚きを覚え、嬉しくなります。親と子や私たちスタッフが会話を交わす中で、様々な気づきが生まれてくることも知りました。創作の時間では、子どもも大人も一生懸命、集中して楽しんでいる様子が伺え、お役に立てて良かったと感じます。親子で美術館に親しめるプログラムを作り上げてくれる教育普及室や企画担当の方々に頭が下がります。（S.E.）

工作の体験教室は世の中に数多くあると思うが、どうぶじゅつは、鑑賞を創作と同等、もしくはそれ以上に重きを置いているところがユニーク。本物を見て、感じて、他の親子と感動を共有した、瑞々しい感触を残しながら、作品作りに取り組める。参加者の感想に「展示を見てからアート体験するのがよかった」など見かけると、西美の作品を親子で楽しんでもらったのだな、とうれしくなる。（S.M.）

# トライアルの様子

ボランティア・スタッフが参加者になったつもりで、プログラムを体験し、意見を出し合い、本番へ向けて最終調整を行います。



# 美術トーク

2009年度からスタートした、主に大人を対象とした解説型のギャラリートーク。常設展示室の作品や前庭の彫刻を取り上げて行う、約50分間のプログラムです。

トークのテーマや取り上げる作品、話す内容などは全て担当Bのボランティア・スタッフ自身が考えます。説明はわかりやすいか？選んだ作品は大人数でも見える大きさか？移動距離が長すぎて、参加者が疲れてしまわないか？など、さまざまなことに気を配りながら、初めて来館する方も気軽に楽しめるように一緒に鑑賞します。

実施日 | 第1・3・5土曜日、日曜日（通年、休館日を除く）

時間 | 11:00～11:50、13:00～13:50

参加方法 | 当日受付

定員 | 各回15名(先着順)

## ある日の美術トーク内容を紹介！

ボランティア・スタッフが担当したある日の美術トークです。テーマや作品は開催回によって変わります。

### 「国立西洋美術館 ハイライト」

- ① コルネリス・デ・ヘーム《果物籠のある静物》1654年頃
- ② カルロ・ドルチ《悲しみの聖母》1655年頃
- ③ アンゲリカ・カウフマン《パリを戦場へと誘うヘクトール》1770年代
- ④ クロード・モネ《睡蓮》1916年
- ⑤ ジョヴァンニ・セガンティーニ《羊の剪毛》1883-84年

### 「美術館で春夏秋冬??」

- ① ヨース・ファン・クレーフェ《三連祭壇画：キリスト磔刑》16世紀前半
- ② ピーテル・ブリューゲル（子）《鳥糞のある冬景色》
- ③ ジャン＝フランソワ・ミレー《春（ダフニスとクロエ）》1865年
- ④ ウジェーヌ・ブーダン《トルーヴィルの浜》1867年
- ⑤ クロード・モネ《並木道（サン＝シメオン農場の道）》1864年



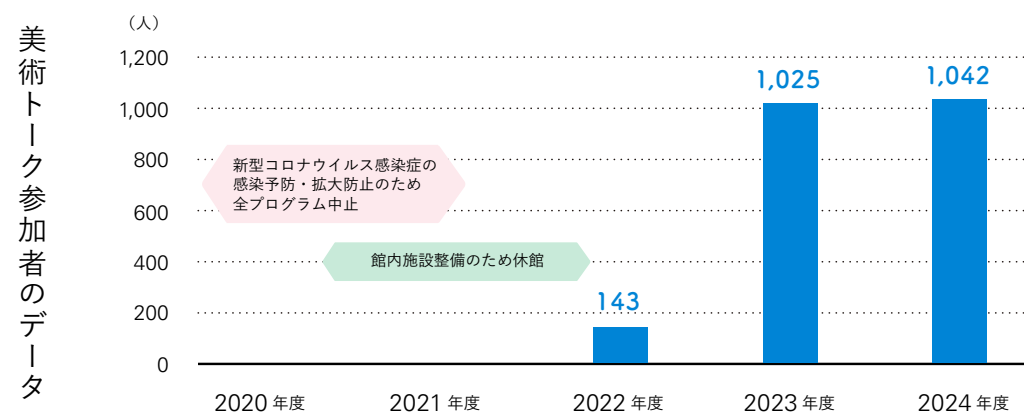
## 2020年度以降の傾向

2020年度から2021年度までは新型コロナウイルス感染症拡大防止に加え、館内施設整備による休館も重なり、全てのプログラムが中止となりました。2022年度も感染症拡大の影響により中止を余儀なくされた期間がありましたが、実施回数を調整しながら少しずつ再開しました。2023年度以降は年間参加者数が1,000人を超え、通常通りプログラムを実施できるようになりました。

2019年度までと異なることは、ワイヤレスガイドの使用と手話通訳の導入を開始したことです。ワイヤレスガイドの使用は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のひとつとして導入したもので、それと同時に各回に定員を設ける体制へ変化しました。また2019年度まではボランティア・スタッフが1名でトークをしていましたが、ワイヤレスガイド導入を機にサポートを増やし、2名体制での実施に変更

しました。2名体制で行うことで、お互いのトークを聞くこともでき、ボランティア・スタッフ同士の横の繋がりも強まっています。

また、2022年度の「美術館でクリスマス」でのギャラリートークに続いて、2024年度より美術トークでも手話通訳を付ける回を設けるようになりました。手話通訳者と原稿内容や立ち位置などを事前に確認して実施しています。参加者の傾向としては、初参加の方が目立つ一方で、リピーターも多くいます。何度も参加してくれる方も多く存在するのは、「同じ作品でも、トーカーによって切り口が異なるから面白い」といった理由があるようです。画一的な内容ではなく、ボランティア・スタッフが入念に準備して練り上げた個性豊かなトークが、リピーターを生み出すことにつながっているのでしょう。



## 2020年度～2021年度

実績なし

## 2022年度

人数 143名 回数 20回

4月1日～8日 館内施設整備のため休館

4月9日 リニューアルオープン

6月18日 美術トーク再開 ワイヤレスガイドとサポート担当の導入、定員（7名）を設け、第1・3・5土曜日に実施

8月6日～10月1日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

10月15日 美術トーク再開 ワイヤレスガイドとサポート担当の導入、定員（7名）を設け、第1・3・5土曜日に実施

## 2023年度

人数 1,025名 回数 86回

6月 定員を15名に拡大、実施日に第1・3・5日曜日を追加

(同年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したため)

## 2024年度

人数1,042名 回数 82回

# おすすめ美術トーク作品

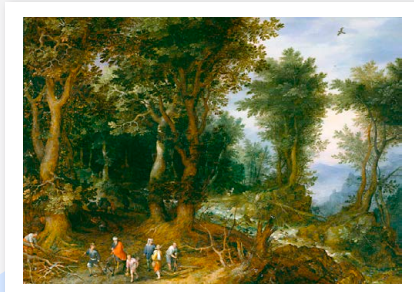
当館常設展の作品の見どころや魅力について、美術トークを担当する五期・六期ボランティア・スタッフへ尋ねてみました。

ピーテル・ブリューゲル(子)  
《鳥糞のある冬景色》  
油彩、板 旧松方コレクション



この作品の楽しみ方としてトークで紹介しているのは、人々が何をしているのかじっくり観察することです。人物が小さく描き込まれているからなのか、思い思いに楽しんでいる姿がとても可愛らしく見えませんか?私のお気に入り、手を挙げて氷の上を歩く二人組の子どもです。きっと楽しそうな表情で一生懸命にあどけない様子で歩いているのだろうと考えると、ほっこりした気分になります。(N.A.)

ヤン・ブリューゲル(父)  
《アブラハムとイサクのいる森林風景》  
1599年 油彩、板



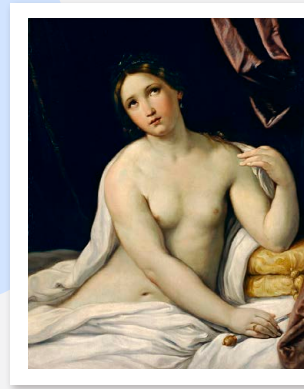
一見、物静かな風景画の様であるが、点描の様に親子のアブラハムとイサクの宗教主題が描かれている。この親子がこれから待ち受けている運命に向かって突き進む話を、小さな一枚の絵の中で、鑑賞者たちそれぞれが想像を膨らませながら聞き入っている様子が伝わってくる。そしてラストシーンでは、皆一同がホッとした表情に変わり、余韻も伝わってくる作品でもある。(I.K.)

ヤン・ステーン  
《村の結婚》  
油彩、板



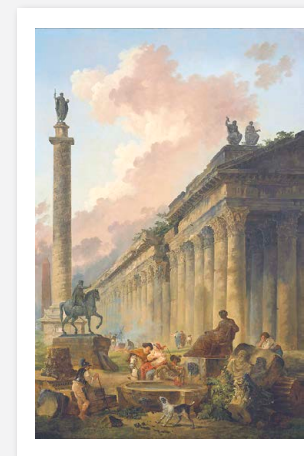
『花嫁さんはいますか?』『いないかな?だってきらきらした人がいないから。』『画面真ん中の女の人。でも花嫁さんにしては年とってない?白髪だよね?』最初にお客様自身で作品をじっくりみて頂くと、十人十色のお声が戻ってきて、トーカーもはっとさせられる作品です。その後は、登場人物と一緒に見ていくと、自然と当時の生活も垣間見られる、とても楽しいオランダの風俗画です。(H.T.)

ガイド・レーニ 《ルクレティア》  
1636-38年頃 油彩、カンヴァス



洗練された色調でラファエロのように現実を理想化して描かれた美しい女性。彼女の前に立つと、精神性の高さを感じつつ、恥じらいながらも短剣に手をやるその仕草は尋常でない劇的な一瞬を感じさせます。同時にバロック的明暗表現の中に彼女の覚悟の思いを伝える眼差し、内面の感情表現は、見る人をこの物語の舞台に引き込み、「どうなるんだろう」という囁きが聞こえてきそうです。(O.M.)

ユベール・ロベール  
《マルクス・アウレリウス騎馬像、トラヤヌス記念柱、  
神殿の見える空想のローマ景観》  
1786年 油彩、カンヴァス



お客様と一緒に、新旧対照物探しゲーム?を楽しんでいる大好きな作品です。トラヤヌス記念柱上で槍を杖として立つ像の雄姿VS手前で犬にほえかけられ杖に隠れるようなへっぴり腰の守衛、横座りの女性像VS赤ちゃんを抱えた馬上の若い女性、水盤の右の二人の哲人像VS画面中央・神殿の前に小さく書かれた古代風衣装の二人などなど。他にもたくさんありそうですね。(A.Y.)

クロード・モネ 《雪のアルジャントゥイユ》  
1875年 油彩、カンヴァス 松方コレクション



パリ郊外の街「アルジャントゥイユ」で、モネは雪景色の作品を多く残しています。雪景色は白～灰色の濃淡で描かれることが多かったのですが、モネはたくさんの「白」をやさしい色合いで描き分けています。比較的小さな作品ですが、ファンの方も多い実感があり、トークで取り上げると熱心にメモをとる姿も見られ、「この作品が好きだから説明が聴きたかった」と言われる素敵な作品です。(T.Y.)

エドゥアール・マネ 《ブラン氏の肖像》

1879年頃 油彩、カンヴァス  
松方幸次郎氏御遺族より寄贈（旧松方コレクション）



グレーのシルクハットに青紫の夏服、白いパンツを粋に着こなすブラン氏。ベストや胸元の差し色がお洒落で惹かれます。トークでは、絵のサイズや大胆な筆使いに反応される方が多い印象です。絵から離れていくと、緑や小道、ブラン氏に光があたり、いきいきと立体的に感じられるポイントがある様に感じますので、近寄ったり離れたたりして、確かめていただきたいと思います。(I.A.)

クロード・モネ

《陽を浴びるポプラ並木》

1891年 油彩、カンヴァス 松方コレクション

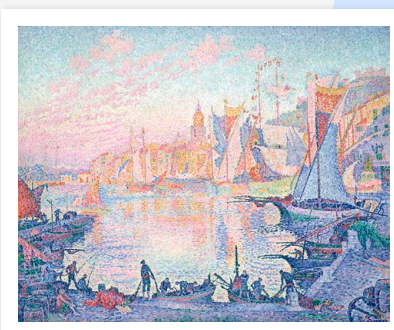


爽やかな青空とポプラ並木。真っ直ぐに伸びるポプラ並木の描く曲線がこの作品のポイントだと感じています。水面に映ったポプラの幹は、真っ直ぐな幹をさらに強調させて見えます。遠景の葉からポプラ並木が川に沿ってカーブしている様子が見えます。風景画として好きな作品でしたが、美術トークのためにじっくり観たことで、さらに楽しく鑑賞できるようになりました。(S.M.)

ポール・シニャック

《サン=トロペの港》

1901-02年 油彩、カンヴァス



この作品の魅力は、離れたときと近くで見たときとでそれぞれ異なる美しさを持っているところです。遠くで見ると陽の光に照らされた建物や輝く水面。海辺の町の美しい情景。近づくと、一つ一つの色が際立つ美しさ。トークで「この作品の前に立つと、色のシャワーを浴びているようで癒される」とお伝えしたところ、参加者がふわっと癒されたようなお顔をされたのが印象的でした。(M.Y.)

# ボランティアの現場から

プログラム終了後、担当したボランティア・スタッフがその日の実施内容を記録した報告書を作成します。取り上げた作品やテーマ、参加者数やトークの内容、当日の様子に加えて、うまくいったこと、反省点などをほかのスタッフと共有して次のトークに活かします。このページでは報告書より一部抜粋してご紹介します。

やはりトークは生もの、生き物…問いかけにガンガンお応え頂ける場合、そうでない場合がありますね。今日は皆様控えめながら、しっかりとご自分の考えをお話し下さり感謝感謝でした。

2週間前に取り上げたのと同じ作品を使い、トークを実施。すっかり慣れたつもりでいたが、言い忘れたもの、言い足りないもの、言わなくていいもの、もっと工夫を要するものなど、後から気づいた事項は少なくない。次回に向けて、改善に努力したい。



次の二つを心掛けました。

- ・「ここからは私の想像」と必ず付け加え、想像と事実（資料）を混同しないようにすること
- ・想像だけで終わらないように資料に基づくしっかりとした情報をお伝えするようにすること

絵はやはりその実物、本物の絵がせっかくあるので、何回も見て、気づいて、その気づきを参加者の方に伝えていくことが重要なのだと思いました。画集をながめただけでは、実際影があったり、光ってみえなかったり、遠くでみると近くでみると印象が違うなど、その展示場所によっても条件が変わってくるので、現場100回…ではないのですが、やはり足を運ぶことが大切だと痛感した今回のトークでした。



幅広い年齢層や趣向の方々が参加できる美術トークならではの、様々な疑問や回答、気づきを、今回も皆さんと一緒にじっくり作品を鑑賞させてもらえました。

相槌を打ってくださったり、「おお〜!!」「なるほど!!」などと反応してくださったり、誰かを指定しない質問にも必ず2-3人が答えてくださる。私が皆さまを楽しませるといふより、皆さまが私を楽しませてくださった…というようでした。私の中で、緊張より楽しさが勝ったトークとなりました。2025年の目標は「楽しんでトークをする」としたので、年明け早々楽しくできましたが、次回からは「私から皆さまに楽しんでいただける」ようにしたいと思います。

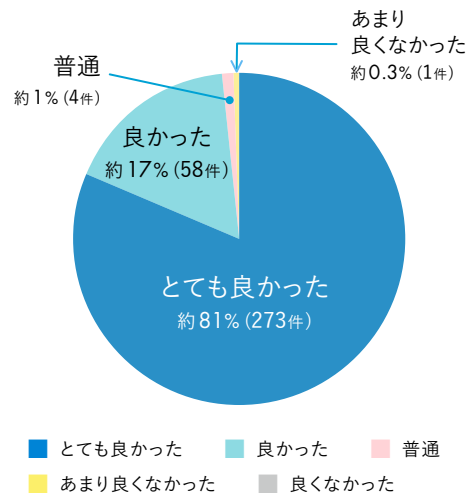


熱心に聞いてくださるお客さまがいらっやっやっ、話しやすかったです。まだ原稿は手離せませんが、少しずつお客さまの様子を見ながらトークができるようになってきたと思います。

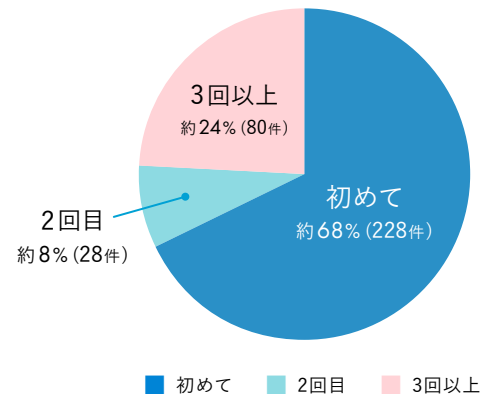
# 参加者アンケート

トーク終了後、参加者を対象にアンケートを実施しています。ここでは2024年度アンケート(回答数336件)から一部抜粋して紹介します。アンケート結果から、美術トークは2回、3回と参加して下さる方が全体の約3割を占めていることが分かります。

## 美術トークはいかがでしたか。



## 美術トークの参加は何回目ですか。



## 参加者の感想

ほとんど同じボランティアの方とは巡り会えませんが、それぞれ切り口や語り口が違って、それも新鮮で楽しみです。また、次回も楽しみにしています。

様々な絵画に見られる象徴や画法をわかりやすく例に出されながら説明されていて、退屈することなく、有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

50分が楽しくてあっという間に過ぎました。解説者のトークも楽しくて知識も豊富で改めて西洋絵画を奥深く楽しむためには歴史の知識が必要だなと思いました。これからもまた機会があれば参加したいです。これを無料でやって下さるのは本当に有り難いです。ボランティアの皆さんに感謝です。

面白かったです。説明を受ける前に一度見た作品でしたが、説明をしてもらってから見ると面白さが増しました。有難うございました。

# 美術館でクリスマス

通年のプログラム以外でも活動の場があります。「美術館でクリスマス」は毎年12月の土日を中心に開催され、ボランティア・スタッフが担当するギャラリートークやワークショップ「ボランティアアート<sup>※</sup>」などが行われます。

## ギャラリートーク

常設展の中からクリスマスに関連する作品を数点取り上げ、担当Bのボランティア・スタッフが約30分間トークを行います。トークをする作品や内容は全てボランティア・スタッフ自身が考えます。2022年度からはより多くの方にお越しいただきたいという思いから、視覚障害、聴覚障害の方に向けた取り組みも開始し、2024年度からは手話通訳付きの開催回も設定しています。

### 2020年度～2021年度

実績なし

### 2022年度

実施回数 4回 参加者数 28名

実施日時 12月17日(土) 12:00～12:30 / 13:00～13:30  
12月18日(日) 12:00～12:30 / 13:00～13:30

### 2023年度

実施回数 4回 参加者数 70名

実施日時 12月16日(土) 11:00～11:30 / 13:00～13:30  
12月17日(日) 11:00～11:30 / 13:00～13:30

### 2024年度

実施回数 4回 参加者数 59名

実施日時 12月14日(土) 11:00～11:30(手話通訳付き) / 13:00～13:30  
12月15日(日) 11:00～11:30 / 13:00～13:30



## ボランティア・スタッフの声

選んだ作品は《キリスト降誕》など、クリスマスに相応しいものでしたが、お母さんと一緒に参加した小学生が作品の中に描かれているものを発見してくれて、「そうなんだね!」と、… その場が笑顔に包まれました。描かれているモチーフについて、「どうしてこんな風に描いているのでしょうか?」と聞ければ、「ホー」と囁きも聞こえて、図像を読み解く楽しさをみんなで共有する喜びがありました。

(O.M.)

「すやすや眠るイエス様と優しく抱っこするマリア様がかわいらしいね!」お客様のお顔も自然とこやかに《キリスト降誕》。日頃キリスト教絵画はあまり見ないわというお客様にも親しみをもってもらうきっかけになればいいな、と思ってギャラリートークを考えます。そしてトーク終了時に「ボランティアアート」をご紹介します。ダブルの思い出をご自宅へ…とても良い流れではないでしょうか? (H.T.)

※ボランティア・スタッフによるワークショップ「ボランティアアート」は49頁でご紹介します

# 建築ツアー

2009年度にスタートした、10歳以上を対象とした建築の解説プログラムです。約50分かけてル・コルビュジエが設計した本館と前庭を中心にまわります。「空間を体感すること」を大切にしており、その場にいるからこそ気づく建物の特徴を参加者と共有しながら見ていきます。また、移動しながらも十分解説が聞こえるよう、ツアーではワイヤレスガイドを使用しています。

参加者を2グループに分け、各グループ定員10名でツアーを行います。1グループにつき、解説・進行をするトーク担当とツアーの進行をサポートするアシスト担当の2名で分担します。紹介する場所は毎回同じでも、解説の切り口は担当するボランティア・スタッフによってさまざまです。研修で得た知識だけでなく、各自で調べ、学んだことを織り込んだツアーには個性が反映されています。

実施日 | 毎週水曜日、第1・3・5日曜日（通年、休館日を除く）

時間 | 15:00～15:50

参加方法 | 事前申込制（先着順）

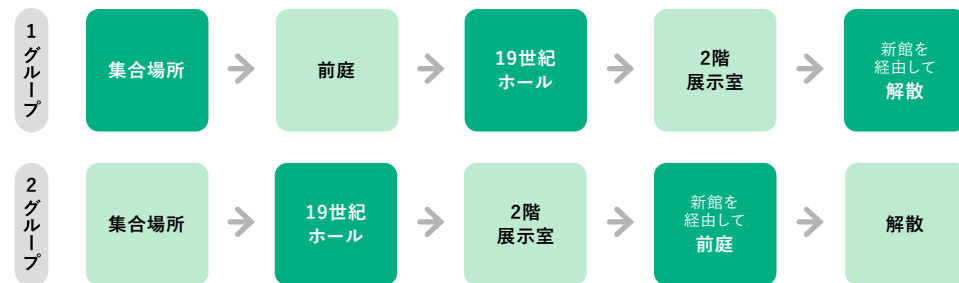
定員 | 各回20名



## 建築ツアーで案内する主なコースを紹介！

ツアーでは、ル・コルビュジエが提唱した「近代建築の5つの要点」と「無限成長美術館」や「モデューロール」という概念を実際に確かめながら、前庭、本館をまわります。

以下に、ある日の建築ツアーのコースをご紹介します。

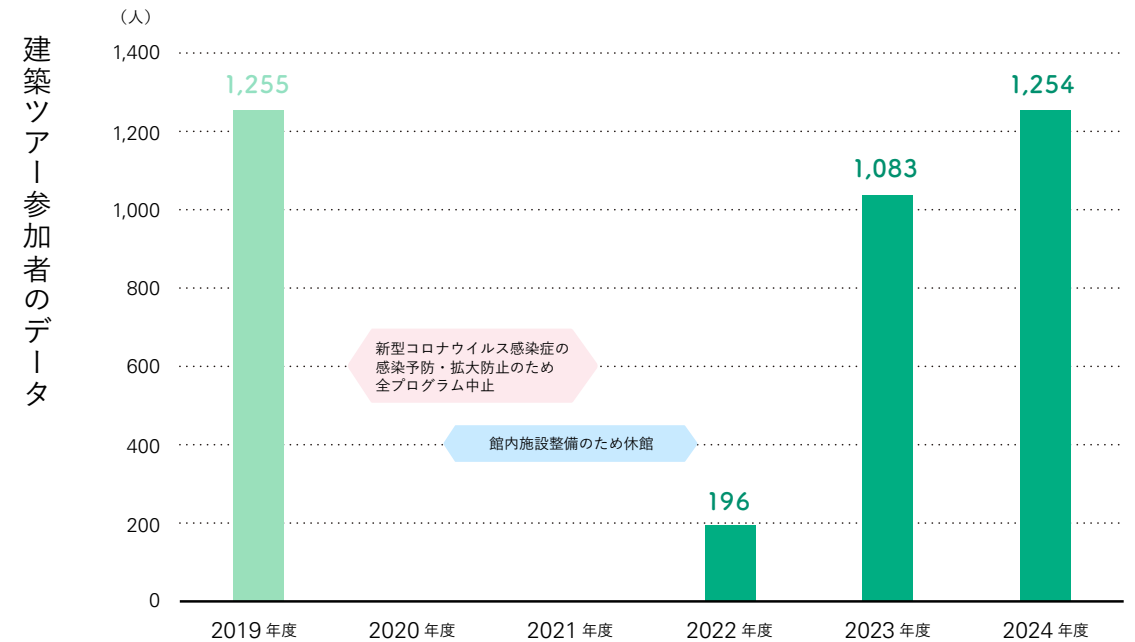


## 2020年度以降の傾向

他のプログラムと同様、新型コロナウイルス感染症の影響と施設整備に伴う休館のため2020年度～2021年度はツアーを中止することとなりました。2022年6月にツアーを再開してからも、感染症の拡大によってやむを得ず中止となった期間もありました。ツアー再開後から2023年8月までは定員を通常の半数である10名に減らしての実施となりましたが、9月からは元の20名に戻し、ほとんどすべての

募集で定員に達しています。2024年度にはコロナ禍以前の参加者数と同水準まで回復したことが下のグラフからわかります。

2019年度まで毎月第2・4水曜日と毎週日曜日に実施していたツアーを、2022年度より第2・4水曜日および第1・第3・第5日曜日の実施に変更、また2023年度からは毎週水曜日と第1・3・5日曜日の実施へと変更しました。



### 2020年度～2021年度

実績なし

### 2022年度

人数 196名 回数 20回

4月1日～4月8日 館内施設整備のため休館

4月9日 リニューアルオープン

6月22日 建築ツアー再開（新型コロナウイルス感染症拡大予防のための措置（定員を10名に減らす、マスク着用など）を講じた上で実施）

8月21日～10月12日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

10月16日 建築ツアー再開（新型コロナウイルス感染拡大予防のための措置（定員減、マスク着用など）を講じた上で実施）

### 2023年度

人数 1,083名 回数 70回

9月 定員を20名に戻す（同年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したため）

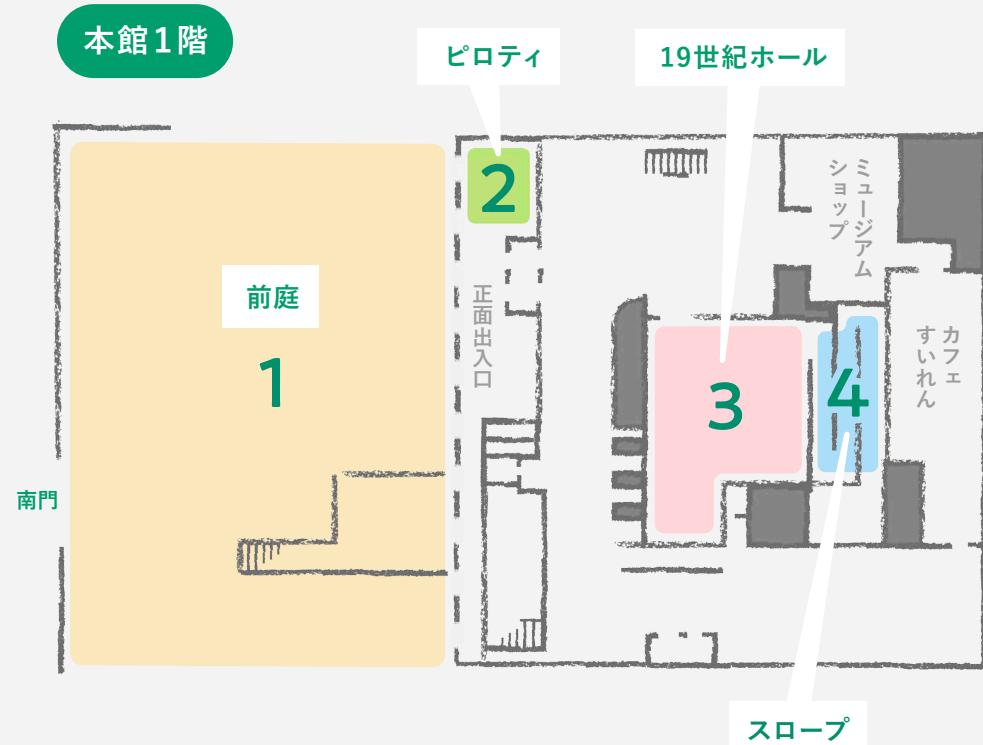
### 2024年度

人数 1,254名 回数 68回

※通常の実施日以外に受け入れを行ったツアー回数、参加人数を含む

# おすすめ建築スポット

当館建築の見どころや魅力について、建築ツアー担当の五期・六期ボランティア・スタッフへ尋ねてみました。



本館1階

ピロティ

19世紀ホール

前庭

1

南門

2

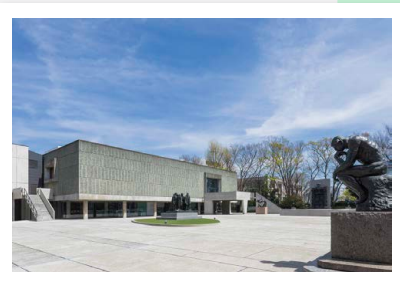
3

4

スロープ

1

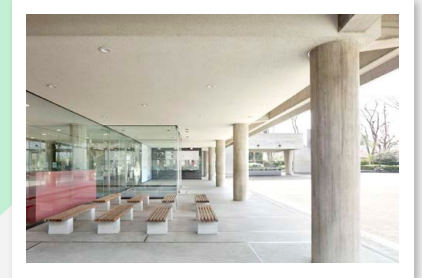
前庭



西門からのびる太い線に沿ってロダンの彫刻を鑑賞しながら進むと、そこにはル・コルビュジェが構想した広場空間「前庭」が広がります。足元の目地は、彼が考案した尺度「モデュロール」によって割りつけられており、ランダムなように見えて調和がとれています。このデザインは向かい合う東京文化会館（弟子／前川國男設計）の窓枠と呼応し、この構成に師弟の対話が聞こえてくるようです。(S.A.)

2

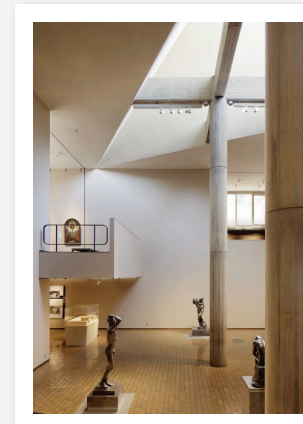
ピロティ



ピロティはル・コルビュジェのお気に入りの設計手法で、前庭の風景や上野公園のざわめきを感じつつ、館内で過ごした時間を振り返ることができます。風の通り抜けるピロティは真夏でも過ごしやすく、開放的でありながら落ち着きのあるこのスペースは、とても居心地が良く沢山の人がひと時を過ごしています。私もその一人ですが、ここではボランティア仲間に遭遇する事も多々あります。(K.M.)

3

19世紀ホール

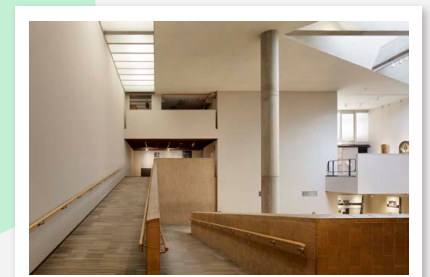


19世紀ホールの床からスロープの壁に続くタイル貼りの佇まいが大好きです。明るい茶系の比較的大きなタイルで、縦横のサイズが約2対1の割合です。長辺がスロープに向かう方向に並べられていますが、隣り合う列は半個分ずれており、軽やかな印象を与えます。タイルの目地が床からスロープの壁まで繋がっているため自然と視線がスロープに向かい、2階展示室への期待感が高まります。(T.M.)

19世紀ホールでは、自分の好きなスポットを探す「1分間散策」を必ず実施。参加者のみなさんが顔を上げながら散策する姿を、いつもドキドキしながら見守っています。特別なこの空間をより体感してもらえよう、参加者と共に探っていきたいです。(T.Y.)

4

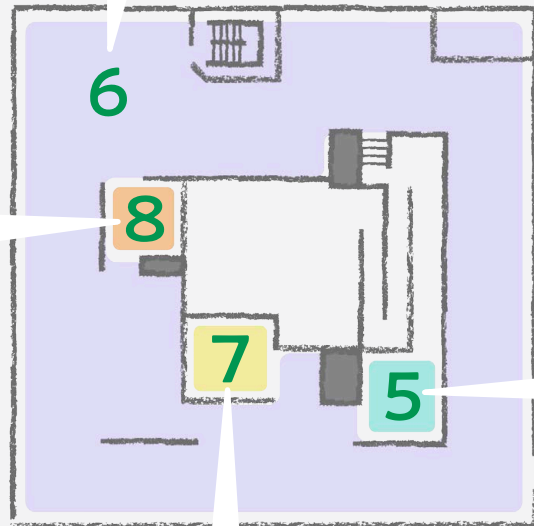
スロープ



19世紀ホールから2階展示室に続く動線は、折り返しのあるスロープになっている。スロープをゆっくり進みながら、凹凸の変化に富んだ19世紀ホールと彫刻たちを眺める。徐々に見る角度が変わり、ワクワク感が止まらない。バルコニーの奥の絵が見えてくる。階段だと下を向いて上がるが、スロープは情景の変化を楽しみながら、自然と2階に近づいていく。ル・コルビュジェ建築の楽しさを体感できる。(M.H.)

本館2階

2階展示室②



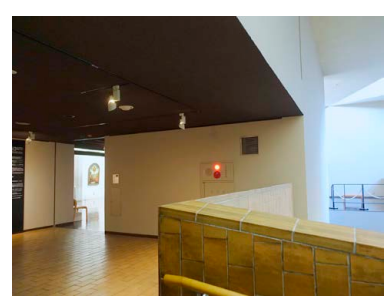
2階展示室  
バルコニー②

2階展示室①

2階展示室  
バルコニー①

5

2階展示室①

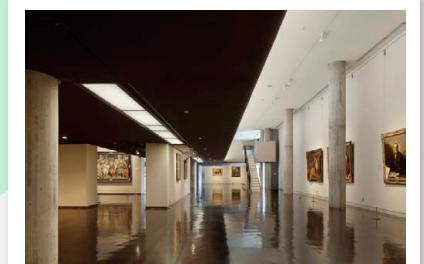


スロープを登ると、低く黒い天井の部屋が。ここは「間」です。中央の吹き抜けや凝った意匠に視線を楽しむ19世紀ホールと、作品鑑賞のための機能美を追求し反復する無限成長の展示室とを隔てる「迫間」。19世紀ホールでの開放感を鎮め、展示室へと誘う前の「幕間」。小さな部屋ですがル・コルビュジエの建築理念が詰まっています。深呼吸して気持ちを新たにすの「透間」です。(Y.M.)

6

2階展示室②

柱や、床や、高さの異なる天井や、機能を失った階段。とてもダイナミックなのに、わずかでも動かし難い緊張感。連続する空間だから、断片しか見えない。抽象的で自立的。近代建築のスタートにして到達点。2階展示室で受け取った、そんな僕の個人的な想いがもし共感されるのだとしたら、愉快的なことだと思います。だから建築ツアーは楽しい。(I.M.)



7

2階展示室  
バルコニー①



2階展示室に入ってすぐ右にあるバルコニーから見上げる19世紀ホールの三角形のトップライトと十字架のように組み合わせられた柱と梁が織りなす景色が、私が最も好きなスポットである。ル・コルビュジエが奈良東大寺の大仏殿や飛行機から眺めた富士山をイメージしたものという説もあるが、まるで教会のようにトップライトからの光が十字架を浮かび上がらせ、荘厳な雰囲気を醸し出している。(W.Y.)

8

2階展示室  
バルコニー②

南側バルコニーからは、トップライトの光が降る静謐な19世紀ホール全体が見渡せる。正面には建物の中心の柱、奥には建築的散歩が楽しめるスロープが目に入ってくる。右斜めに視線を転じれば、ル・コルビュジエ建築の特徴である開かれた空間、19世紀ホール、東側バルコニー、展示室、中庭、管理棟へと続く空間の重なりや広がりを楽しむことができる。(O.T.)



# ボランティアの現場から

プログラム終了後、担当したボランティア・スタッフがその日の実施内容を記録した報告書を作成します。参加者数やツアーの内容、当日の様子に加えて、うまくいったこと、反省点などをほかのスタッフと共有して次のツアーに活かします。このページでは報告書より一部抜粋してご紹介します。

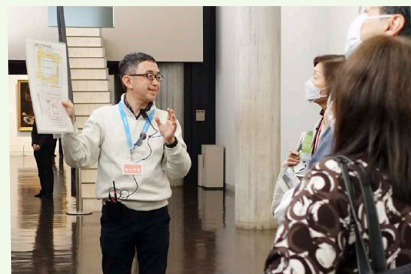
ツアー中に、お客様の顔が、「そうだったんだ」という表情に変わっていく瞬間があってうれしくなりました。感謝!!



本日初めての全員6期で運営、トーカーデビューの日でした。前日に美術館を1周し、当日の朝ボランティア仲間のOさんの模擬ガイドに参加させて頂き、気分を盛り上げガイドに臨みました。「50分でツアーを終了すること」「スロープをゆっくりのぼり、変化する景色を体感してもらうこと」2点のみできたらOK!と決め、実施しました。

前庭、道路を行き交う傘の流れ、東京文化会館の重なり合う風景が映えて、雨の日ならではの色の美しさに歓声が上がった。あみだ模様確認のため軒下に移動。傘置き場の動線を邪魔してしまったのは反省点。

きょうの課題は酷暑。ツアースタート時にゲストのみなさまに「外へ出てもよいですか?」と確認をとりました。ふだん前庭で話すことをエントランス横で話したあと、それらの確認のために前庭へ! 予定より少し長くなってしまいましたが、ゲストの方の「せっかく来たのですから、外の話は外で聞けてよかったです」の一言に救われました。ただ、19世紀ホールに入って「わーっ!」と声があがり...でもそれは、涼しさへの歓声でした。やっぱり、前庭は暑かったのです。



こちらの問いかけに答えていただいたり質問をしていたり、和やかな雰囲気が進みました。西美常連の方も「今まで気付かなかった」と呟いておられ、色々発見をしていただいたようです。

19世紀ホールで自由時間の後、一言ずつ感想等を。女性の方は「三角のガラス窓が教会のステンドグラスの様に感じた」と。中学生の男子は「19世紀ホールの複雑な構成が生む光と影が印象的だった。」と話してくれました。

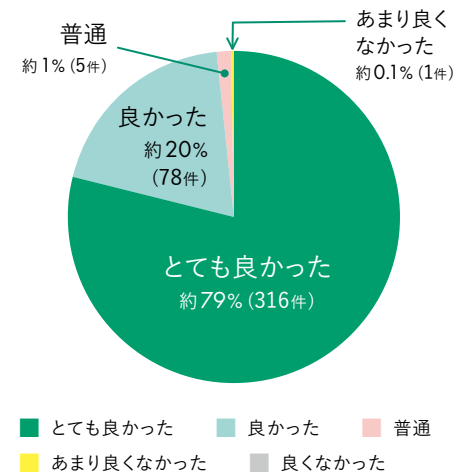


ご参加の男性の身長が約183cmで、手すりの高さが腰(ベルト)の高さ、というまるでモデュロールのモデルさんですか?というなかでの説明となりました。ご本人はもちろん、ご参加のみなさまも(私も)モデュロールを体感できました。

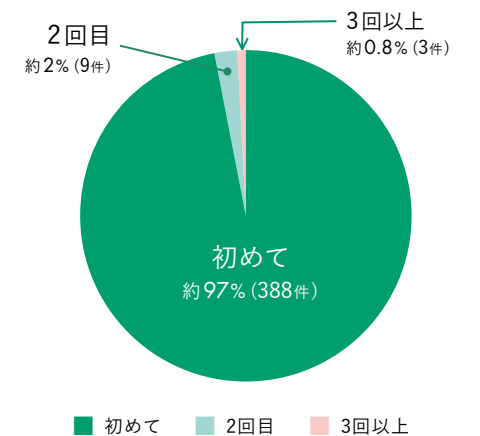
# 参加者アンケート

ツアー終了後、参加者を対象にアンケートを実施しています。ここでは2024年度アンケート(回答数400件)から一部抜粋して紹介します。建築ツアーは初めて参加する人が多いのが特徴で、当館に初めて来た、という人も珍しくありません。

## 建築ツアーはいかがでしたか。



## 建築ツアーの参加は何回目ですか。



## 参加者の感想

建物が好きなかだけで、何の知識もなく参加したのですが、説明してくださる方たちがとてもフレンドリーで、敷居の高さを感じることなく、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

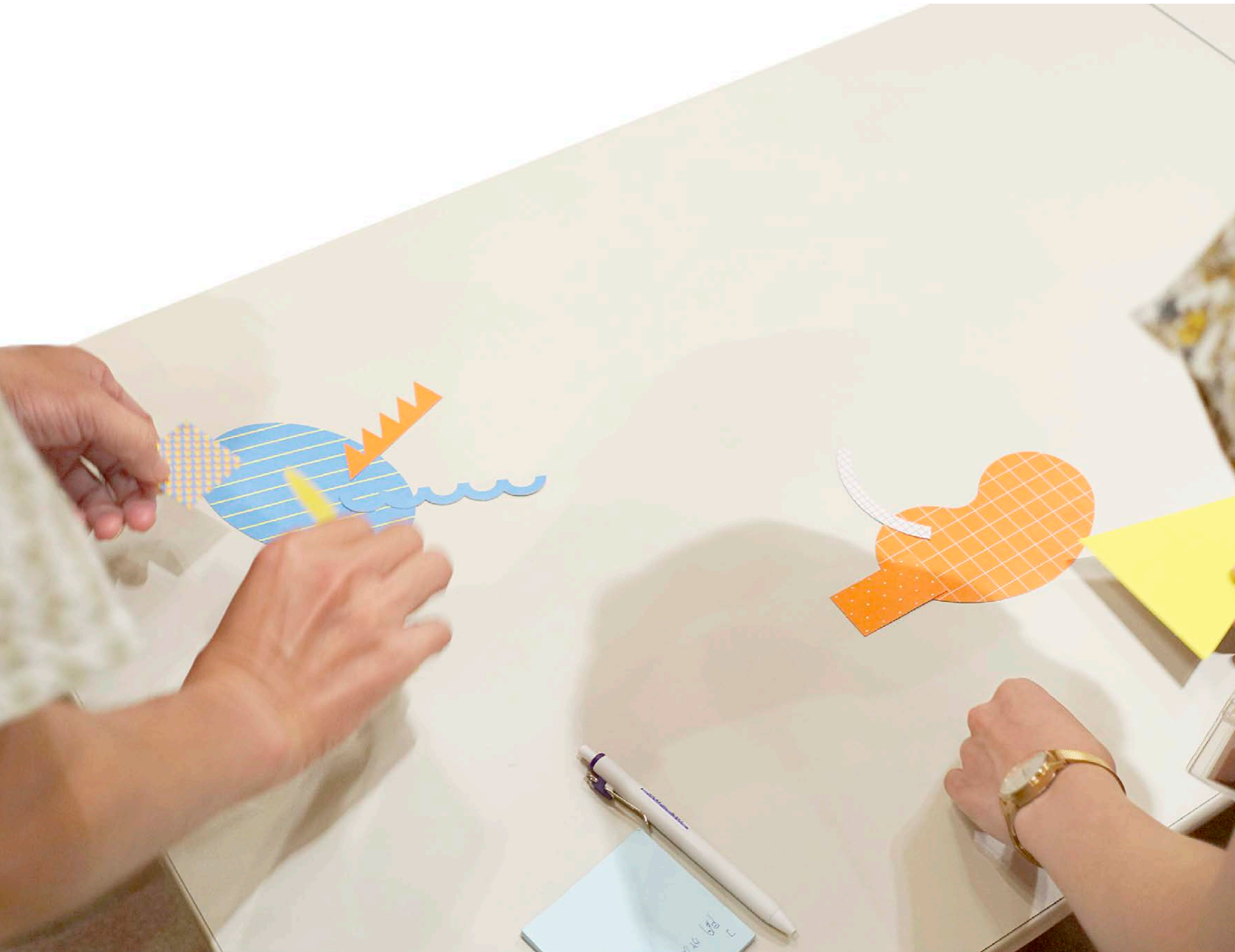
いつもは立ち止まらずスーッと通り過ぎてしまう場所も、ガイドさんのお話を聴きながら空間を満喫する事が出来ました。ステキな場所だったなあ。建物を造った人の想いを聴くことができ嬉しかったです。建物には工夫や想いがたくさん詰まっているのですね。

豊富な知識を持たれているボランティア・ガイドの方々から、熱心に説明いただき、とても充実した時間でした。建築とコルビュジエに対して、ますます興味が湧いてきました。

疑問に思っていた中3階の謎や、途中の正面どこでしょうクイズに見事に引っかかり、正直もっとおきたい解説だろうなあと思っていたのでいい意味で予想を裏切られました。

# 研修

当館がボランティア・スタッフに対して行う研修は2種類あります。一つは新たに活動を始め  
るボランティア候補生への「養成研修」、もう一つは、すでに活動しているボランティア・ス  
タッフへの「公式研修」です。養成研修は、当館の常設展の作品や建築に関するレクチャー  
のほか、トークのテクニック習得や各プログラムの目的を共有するための模擬トーク、ディス  
カッション、ワークショップなども含まれます。公式研修は、活動をしていくにあたってさらに  
必要だと思われる内容について、教育普及室スタッフが企画しています。



## 2023年度 六期ボランティア・スタッフ募集

2023年度には六期ボランティア・スタッフの募集を行い、新たに31名を採用しました。対象者はボランティア候補  
生として約9ヶ月間の養成研修を受け、2024年度から本格的に活動を開始しました。

### 六期スタッフの募集から活動開始まで

#### 募集内容

美術と鑑賞をつなぐ架け橋となり、美術や美術館との出会いをサポートしてくださる方

- A: スクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム どうびじゅつ
- B: 美術トーク
- C: 建築ツアー

活動期間 2024年4月～2030年3月（6年間）

#### 募集期間

2023年3月20日～4月10日

#### 選考・採用

書類選考と面接によってボランティア候補生を選出。

- A: 13名
- B: 9名
- C: 9名

#### 研修期間

2023年7月～2024年3月

※上記採用者のうち、2024年4月に全員をボランティア・スタッフとして登録

# 六期ボランティア・スタッフ養成研修内容一覧

当館の常設展の作品や建築に関する講義、実際に作品をよく見る体験のほか、各プログラムに関するディスカッションなどが行われました。また研修の最後には、1人ずつ担当プログラムの模擬トーク・模擬ツアーを実施し、フィードバックや振り返りも行いました。

A：スクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム B：美術トーク C：建築ツアー

	日程	担当	内容	対象
1	2023年 7月6日(木)	教育普及室、総務担当	事務手続き、配布物の確認	ABC
		酒井敦子(主任研究員)	教育普及室からのあいさつ・職員紹介・ボランティア研修の概要	
		大木章子(研究補佐員)・長谷川暢子(研究補佐員)	ボランティア・スタッフの自己紹介	
		田中正之(館長)	講義：当館の設立の経緯、コレクションの概要、今後の展望	
		教育普及室	次回以降の連絡事項など	
2	7月13日(木)	酒井敦子	講義：当館の教育普及活動(全体)	ABC
		大木章子・長谷川暢子	講義：当館の教育普及活動(ボランティア関連)	
		大木章子・長谷川暢子	研修の目的・プラン・課題について	
		大木章子・長谷川暢子	ワークショップ：国立西洋美術館アートカードセット	
3	7月20日(木)	渡辺晋輔(学芸課長・主任研究員)	講義：所蔵作品解説①イタリア オールドマスター	AB
		寛奈雅子(主任研究員)	講義：レジストラの仕事について	
4	7月27日(木)	中田明日佳(主任研究員)	講義：所蔵作品解説②オランダ・フランドル オールドマスター	AB
		浅野菜緒子(特定研究員)	講義：イギリス美術、女性作家 / SNSなどを活用した広報について	
		酒井敦子・長谷川暢子	美術トークの概要・課題(美術トーク見学)について	B
5	8月3日(木)	酒井敦子・大木章子・福田京(主任研究員)	講義：当館の建築について(動画、資料の案内含む)	C
		西和彦(文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室世界文化遺産部門主任文化財調査官)	講義：本館・前庭の世界遺産登録について	
6	8月24日(木)	福田京	講義：当館の増改築、前庭の復原工事について	C
		松隈洋(神奈川大学建築学部建築史研究室教授)	講義：ル・コルビュジェと日本の近代建築	
7	8月31日(木)	新藤淳(主任研究員)	講義：所蔵作品解説③ドイツ オールドマスターを中心に	AB
		袴田紘代(主任研究員)	講義：所蔵作品解説④19世紀後半の美術—ポスト印象派を中心に	
8	9月28日(木)	福田京	ワークショップ：建築ツアー体験	C
		酒井敦子・大木章子	ディスカッション：体感するツアーとは 模擬ツアー(11月)・ツアー見学(10~11月)・ツアーサポート(12~2月)の説明	
9	10月5日(木)	飯塚隆(主任研究員)	講義：所蔵作品解説⑤指輪、ギリシャ・ローマの景観が描かれた作品など	AB
		邊牟木尚美(主任研究員)・本保知彩(研究補佐員)	講義：保存修復について	

	日程	担当	内容	対象
10	10月12日(木)	高橋悦子(研究補佐員)	見学：研究資料センター 講義：研究資料センターの使い方	ABC
		田島伸彦(株式会社 協栄)	講義：展示室でのお客対応について	
		秋田美緒(任期付研究員)	講義：国立アトリサーチセンターのラーニングについて	
11	10月19日(木)	川瀬佑介(主任研究員)	講義：所蔵作品解説⑥スペイン オールドマスター	AB
		高嶋美穂(特定研究員)	講義：保存科学について	
12	10月26日(木)	久保田有寿(特定研究員)	講義：所蔵作品解説⑦20世紀の美術	AB
13	11月2日(木)	寺島洋子(元国立西洋美術館主任研究員)	ワークショップ：ヴィジュアル・リテラシーについて	ABC
		酒井敦子・長谷川暢子	ディスカッション：課題について、模擬トーク(12月)の説明	B
14	11月9日(木)	寺島洋子	ワークショップ：対話による鑑賞体験	A
		酒井敦子	講義：当館のスクール・ギャラリートークについて	
15	11月16日(木)	酒井敦子・長谷川暢子・大木章子	ワークショップ：スクール・ギャラリートーク体験 ディスカッション：体験後の振り返り、トークプランの作成について	A
		長谷川暢子	スクール・ギャラリートークの概要、模擬トーク(1月)の説明	
		教育普及室・どうぶじゅつ企画担当スタッフ	ワークショップ：どうぶじゅつ体験	
16	11月30日(木)	大木章子	どうぶじゅつ概要	A
		教育普及室	模擬建築ツアー(模擬ツアー+フィードバック) ※1人1回実施	
17	11月	教育普及室	模擬美術トーク(模擬トーク+フィードバック) ※1人1回実施	C
18	12月	教育普及室	建築ツアーのサポート ※1人2回実施	B
19	12~2月	教育普及室	模擬スクール・ギャラリートーク(模擬トーク+フィードバック) ※1人1回実施	C
20	2024年 1月18日(木)	陳岡めぐみ(本部国立アトリサーチセンター主任研究員(併)国立西洋美術館学芸課主任研究員)	講義：所蔵作品解説⑧19世紀の美術—印象派、ロダン彫刻を中心に	AB
		教育普及室	模擬ツアーの振り返り、ボランティア活動の運営方法について	C
21	1月	教育普及室	模擬トーク / ツアーの振り返り、ボランティア活動の運営方法について	A
22	2月22日(木)	教育普及室	模擬スクール・ギャラリートーク(模擬トーク+フィードバック) ※1人1回実施	B
23	2月29日(木)	教育普及室	模擬トーク / ツアーの振り返り、ボランティア活動の運営方法について	A
24	3月20日(水)	教育普及室	各プログラム手順、2024年度の年間予定、2023年度活動報告など	例会

※担当の役職名等は研修当時のもの

# 公式研修

## 2020年度

実績なし

## 2021年度

「お茶っこ+(プラス)」(オンライン研修)を実施。

## 2022年度

日程	担当	内容
4月25日(月)	福田京	前庭の復原工事について
	大木章子	前庭の原稿作成・リレー式模擬ツアーについて
6月8日(水)、15日(水)	—	建築模擬ツアー

## 2023年度

六期ボランティア・スタッフ養成研修を実施。

## 2024年度

日程	担当	内容
7月27日(土)	講師：南雲麻衣(アーティスト) ファシリテーター：勝野崇介、佐藤湊、藤田さや夏	ろう者(身体感覚、言語、文化)についてのレクチャー、ワークショップ
	長谷川暢子	手話通訳付きプログラムについて
10月31日(木)	飯田有季(研究補佐員)、寺島洋子	担当Cフォローアップ研修「建築ツアー参加者アンケート結果の共有、ディスカッション、模擬ツアー、質疑応答、映像鑑賞」
11月10日(日)	寺島洋子、長谷川暢子	担当Bフォローアップ研修「美術トークレビューのフィードバック、美術トークについて」
3月20日(木)	寺島洋子、長谷川暢子、飯田有季	担当Aフォローアップ研修「スクール・ギャラリートークレビューのフィードバック、スクール・ギャラリートークについて」

※「お茶っこ+(プラス)」については、43頁でご紹介します  
※担当の役職名等は研修当時のもの

# 研修の様子



# コロナ禍・長期休館の活動について

新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館やプログラムの中止により、2020年度～2023年度におけるボランティア活動は制限されました。2020年2月から2022年3月までの約2年間、もともと予定されていた館内施設整備のための長期休館もあり、展示室での活動はできなくなりました。その間、ボランティア・スタッフ同士のオンライン交流会「お茶っこ」やオンライン研修会「お茶っこ+(プラス)」を通して活動を継続しました。

2022年4月以降、段階的に館内で行う各プログラムが再開されましたが、プログラムでは参加者とのコミュニケーションを多く含むため、新型コロナウイルス感染症拡大予防のために密閉・密集・密接を避けることが求められた状況下では、実施が難しいものもありました。一部のプログラムでは定員を減らしたり、大きな声を出さずにトークができるようにワイヤレスガイドを使用したりするなど、実施方法を変えて行いました。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が外出自粛の要請や入院勧告などの措置が可能な2類相当から季節性インフルエンザなどと同じ5類感染症に移行したことで、日常生活における制限はなくなりました。このことを受けて、ボランティア・スタッフが行う全てのプログラムを再開しました。

2020年2月25日 - 2022年3月31日 新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため全プログラム中止
2020年2月29日 - 6月17日 全館臨時休館
2020年6月18日 再開館
2020年10月19日 - 2022年4月8日 館内施設整備のため全館休館
2022年4月9日 リニューアルオープン
2022年6月15日 スクール・プログラムのうち、展示室での対話を含まないもののみ再開（教育普及室スタッフが先行、ボランティア・スタッフ有志がサポートを務める）
2022年6月18日 美術トーク再開
2022年6月22日 建築ツアー再開
2022年10月15日 ファミリープログラム どうぶじゅつ再開
2023年4月 スクール・ギャラリートーク再開

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため措置（定員減、トーク作品数減、マスク着用など）を講じた上で実施  
※詳細は各プログラムページ「2020年度以降の傾向」を参照

## 「お茶っこ」・「お茶っこ+(プラス)」

### 2020年度 オンライン交流会「お茶っこ」



ボランティア・スタッフのコロナ禍における状況やPC環境、ボランティア活動へのモチベーションなどについてアンケートをとったうえで、web会議システムを利用した交流会を行いました。2019年度の養成研修を終えて2020年度から活動を開始する予定だった五期ボランティア・スタッフと、2017年度から活動していた四期ボランティア・スタッフとの顔合わせや、普段は活動を共にしない異なる担当グループのボランティア・スタッフとが交流する機会となりました。

### 2021年度 オンライン交流会+研修「お茶っこ+(プラス)」

2021年度は翌年度の活動再開に向けてスキルアップすることを目的として「お茶っこ+(プラス)」を実施しました。各担当グループに必要な知識のブラッシュアップに加え、担当を超えた交流やディスカッションなどを通じて自身の活動への多層的な理解を促しました。

### 「お茶っこ」・「お茶っこ+(プラス)」の成り立ち

2019年度～2023年8月 教育普及室 ボランティア・コーディネーター  
大木章子

2020年2月、それまで継続してきたボランティア活動がコロナ禍の影響で突然途絶えてしまいました。ボランティア・スタッフからは、人との交流が活動のモチベーションになっていたという声が多くありました。私たちはその中でもボランティア・スタッフと教育普及室スタッフが交流できる機会を作ろうと、オンライン交流会「お茶っこ」を行うことにしました。「お茶っこ」は東北地方で親しい仲間たちがお茶を片手におしゃべりすることを指し、誰もが気軽に参加してほしいという思いを込めて名付けました。画面越しとはいえ、久しぶりに皆に再会し、互

いの近況報告をし合えた時はとても嬉しかったことを覚えています。この会が元となり、翌年度は活動再開に向けたオンライン交流会+研修「お茶っこ+(プラス)」を行いました。それまでのボランティア・スタッフとともに積み重ねてきた西美の活動があったからこそ、互いに励まし合いながら、コロナ禍という困難な時期を乗り越えることができたのだと思います。

# 「お茶っこ」・「お茶っこ+(プラス)」実施内容一覧

## 2020年度 「お茶っこ」

近況報告会	10月10日(土)、14日(水)、20日(火)①、20日(火)②、21日(水)、22日(木)
ボランティア報告会(2020年度の報告、2021年度の予定) +フリートーク「国内で印象に残っている展覧会」	3月16日(火)、21日(日)

## 2021年度 「お茶っこ+(プラス)」

担当A・B・C合同(全3回/Zoom) 企画・進行: 松尾由子

美術作品のディスクリプション	6月15日(火)
ギャラリートーク時の問いかけ	9月17日(金)
多角的知能理論	11月16日(火)

担当A 企画・進行: 松尾由子

スクール・ギャラリートーク練習	全13回(Zoom)	4月23日(金)、30日(金)、5月13日(木)、14日(金)、18日(火)、6月22日(火)、7月6日(火)、8日(木)、13日(火)、9月24日(金)、10月7日(木)、12日(火)、19日(火)
-----------------	------------	--

担当B 企画・進行: 長谷川暢子

当館の美術トークについてディスカッション	全3回(Zoom)	5月22日(土)、7月10日(土)、9月25日(土)
グループワーク(トーク練習など)	全5回(Zoom)	10月9日(土)、16日(土)、30日(土)①、30日(土)②、11月6日(土)
美術トーク発表	全2回(Zoom)	12月18日(土)①、18日(土)②

担当C 企画・進行: 大木章子

作品のない本館建築ツアー: 福田京	全1回(Zoom)	5月11日(火)
体感する建築ツアーの実現に向けてディスカッション	全4回(Zoom)	5月12日(水)、6月9日(水)、9月8日(水)、10月13日(水)
作品のない本館建築ツアー: 福田京	全2回(対面)	10月26日(火)、11月1日(月)

# コロナ禍・長期休館を振り返って ～「お茶っこ+(プラス)」の活動を中心に～

コロナ禍・長期休館中のボランティア活動について、当時の教育普及室スタッフとボランティア・スタッフに尋ねました。

## 「お茶っこ+(プラス)」A・B・C合同の活動について

2018年度～2022年度 教育普及室 特定研究員

松尾由子

長期活動休止中の2021年、教育普及室職員で西洋美術館のボランティア活動について理念や現状を共有する場を設け、活動再開時にありたい姿を思い描いて「お茶っこ+(プラス)」の内容を考えた。

ABC合同の回を設定したのは、どの活動にも通底する学びの場をもつことで、将来ボランティア活動およびスタッフにゆるやかなつながりや一体感が醸し出されればと願ったからだ。2004年のボランティア制度開始から約15年、実施プログラムは内容も規模も拡大成長

し、スタッフは来館者の幅広いニーズに伝えてきた。他方、活動が分かれ任期が付き、皆が互いに知り合う機会は自然に減るタイミングでもあったのだ。日頃活動全体を眺めながら、スタッフ皆で共有できる価値観や姿勢があると感じてきた。

研修内容は、教育普及室の仕事の土台に調査や理論があることに倣い、趣旨に合うものを提案した。オリジナルの研修を3つ、毎回トライアルもして組み立てたのは、若気の至りと言えるかも？

## 「お茶っこ+(プラス)」Aの活動について

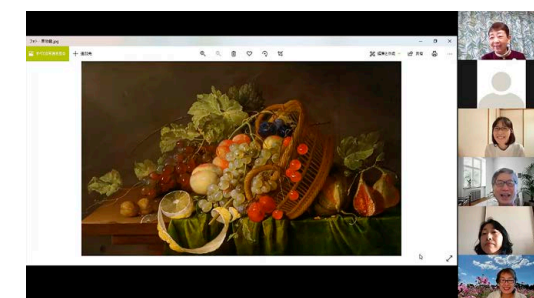
2018年度～2022年度 教育普及室 特定研究員

松尾由子

Aの活動は忙しい。スクール・ギャラリートークは年によっては100件に近くなるし、春と秋にはどようびじゅつがある。そして、孤独な面もある。子どもの発言をまずは一人で受け止めながら、グループの会話として鑑賞を進めるからだ。自分をふりかえるのも基本自分だけになる。

他のスタッフのトークを見て学んだり、一つの疑問をみんなで考えたり、ふりかえる視点をもったり、つまり上下なく仲間内で学び合う場を望んできたが、日常では難しかった。しかし「お茶っこ+(プラス)」のAでは、オンラインの特性上、複数のグループが同時に1作品を鑑賞し、ファシリテーターは動画で他グループの鑑賞から学ぶこともできる。

とは言え、人前でファシリテートする恥ずかしさ苦し



さは痛いほど分かる。だからこそ立候補してくれたスタッフが「やってよかった」と思えるよう、事前練習、当日のグループ分け、ふりかえりや記録の工夫と全力で向き合った。選定作品が良かったという声をいただいたが、Bの日誌を参考にした回もある。様々なスタッフがインスピレーションを与えてくれたのだ。



## 「お茶っこ+(プラス)」Bの活動について

2020年度～2024年度 教育普及室 ボランティア・コーディネーター  
長谷川暢子

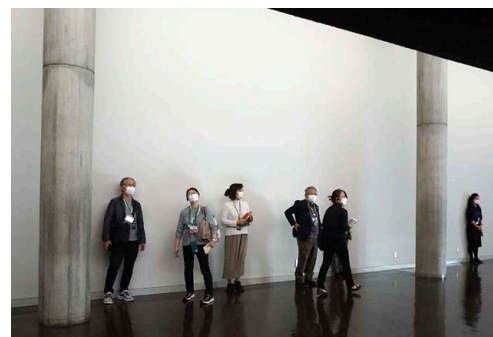
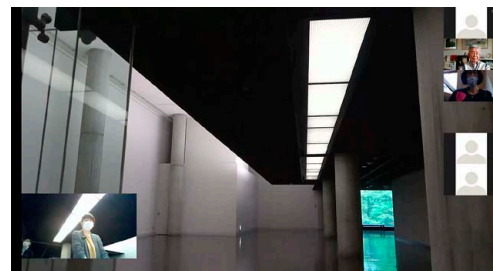
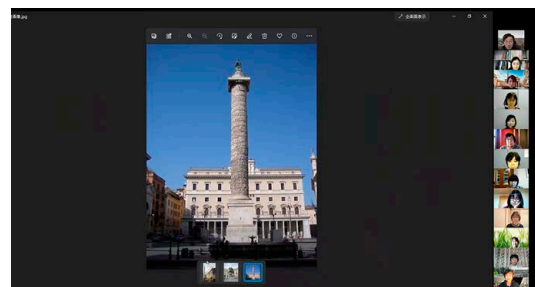
先が読めないことばかりのコロナ禍・長期休館中は、ボランティア・スタッフのみなさんと試行錯誤の日々でした。展示室での活動再開を心待ちにしながら、美術トークの「お茶っこ+(プラス)」ではボランティア・スタッフ限定公開の「オンライン美術トーク」に挑戦。美術トークってどんなトーク？や、作品の見どころなど、みんなで丁寧にディスカッションしながら取り組みました。この活動をとおして、作品の魅力を伝えたいというト



コロナ禍で活動が突然停止し、そのまま長期休館に入って本当にがっかりしている中、教育普及室の皆様のご尽力でオンラインでの研修に参加することができました。画面ごしでも仲間と語り合えたことは一人ではないと思えた瞬間でした。こうして今、普段の生活に戻り子どもたちと笑顔で作品の鑑賞ができることは当たり前のことではないのだ！と時々思い出しては嘸みしています。

(担当Aボランティア・スタッフ I.M.)

カーの想いを何度も感じ、いつでもポジティブでエネルギーギッシュなみなさんの姿に、コロナ禍で迷うことの多かった私自身がとても勇気づけられたことを憶えています。そして、2020年に着任した私にとって「お茶っこ」はボランティア・スタッフのみなさんと初めてお会いした場。なかなかリアルではお会いできませんでしたが、いつも優しく、あたたかく迎えてくださったことも、私にとってはとても印象深い思い出です。



## 「お茶っこ+(プラス)」Cの活動について

2019年度～2023年8月  
教育普及室 ボランティア・コーディネーター  
大木章子

建築ツアーでは、プログラムの再開に向けて、建物本館のオンライン・ツアーを行ったことや、ボランティア・スタッフ有志とともに考えた研修が印象深く残っています。

最初に試行錯誤しながらも実施したオンライン・ツアーでは、休館中だったからこそ、普段は気づかなかった建物の構造や様子を捉えることができました。対面でのボランティア活動が制限される中、オンラインでも学べるということがボランティア・スタッフのモチベーションに繋がったように思います。

また、ボランティア・スタッフの中から募った検討委員とともにリモートでの打ち合わせを重ね、研修内容を練っていきました。館内の写真や見取り図を共有しながら実際の建築ツアーをイメージして、ツアーの中で参加者に伝えるべきポイントや見せ方等を皆で話し合うことができました。

たとえコロナ禍でも、一緒に活動する仲間のことを思いやり、熱心に学び続けようとするボランティア・スタッフの姿から、多くのことを学びました。

建築ツアーの「お茶っこ+(プラス)」では「作品のない本館建築ツアー」がZoomと実地の両方で行われ、部分的に消灯された館内を巡るという貴重な体験もしました。光の違いによって空間の印象が大きく変わることに驚き、自然光で作品を見ることの意義、西美の建築にこめられたル・コルビュジェの意図を改めて認識する機会となりました。建築ツアー再開を心待ちにしていた日々が思い出されます。

(担当Cボランティア・スタッフ S.A.)



# 自主的な活動

当館主催の教育普及プログラムのほかに、ボランティア・スタッフが自ら企画・実施する自主的な活動があります。担当別に学びたいことを話し合って企画する「自主研修」、活動に必要な資料の蔵書を管理する「図書委員」、ボランティア・スタッフが企画から実施まですべてを行う「ボランティアート」、さらに金曜日の夜間開館時に不定期で開催している「金曜ナイトトーク」があります。

## 自主研修

### 2020年度－2022年度

実績なし

### 2023年度

日程	内容
4月27日(木)	担当A自主研修「SGT交流会 - 鑑賞・創作(私たちの美術館をつくる)」
5月28日(日)	担当B自主研修「懇談会 - 美術トークに関する感想・相談、おススメの参考資料・本、最近の展覧会、おススメ海外旅行コース」

### 2024年度

日程	内容
4月25日(木)	担当A自主研修「スクール・ギャラリートークに関する意見交換会」
2月14日(金)	担当A自主研修「ちょこっとワークショップ」

※上記以外にも交流会や勉強会などの自主的な活動を行っている

## 図書委員

ボランティア・スタッフが活動のために利用するボランティア室には、2025年9月時点で790冊程度の書籍等資料があります。新規図書の登録分類や蔵書リストの作成、貸出、寄贈の受入、棚卸しなどの蔵書管理は、2011年から有志メンバーによって自発的に発足した図書委員によって行われています。過去に当館で行われた展覧会のカタログや美術史、建築、教育普及に関する書籍などが集められており、ボランティア・スタッフからのリクエストを受けて購入しています。



## ボランティアート

担当A(学校、ファミリープログラム)、B(美術トーク)、C(建築ツアー)の区別なく、企画から実施までの全てを有志のボランティア・スタッフが行うプログラムです。

事前申込不要で自由に来館者が参加でき、夏休みと「美術館でクリスマス」に合わせて年に2回実施しています。当日の来館者が気軽に短時間でできる内容に工夫されていることから、家族連れ、友人同士、海外からの旅行者など、年齢や国籍を問わず多様な人々が参加しています。

「ボランティアート」とは“Volunteer”と“Art”を合わせた造語で、このネーミングもボランティア・スタッフのアイデアです。広報のためのチラシやポスターでは、右のロゴマークが目印になっています。





# ボランティアアート プログラム内容

## 2020年度 - 2021年度

実績なし

## 2022年度

### ちょっぴりよばりなクリスマスカード

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、「ボランティア」の代替としてオリジナルのクリスマスカードを配布

実施日時 12月17日(土)、18日(日) 10:00～16:00 参加人数 395名(子ども:93名、大人:302名)



## 2023年度

### セイビを探検! わくわくシートでバッジをGET!

実施日時 8月19日(土)、20日(日) 10:30～15:00 参加人数 626名(子ども:146名、大人:480名)



### 作ろう! 飾ろう! トゥインクル★チャーム

※「美術館でクリスマス」のプログラムとして実施

実施日時 12月16日(土)、17日(日) 10:00～15:00 参加人数 347名(子ども:57名、大人:290名)



## 2024年度

### きって はって しましまコースター!!

実施日時 8月24日(土)、25日(日) 10:00～15:00 参加人数 300名(子ども:66名、大人:234名)



### 押し de 缶バッジ!!

※「美術館でクリスマス」のプログラムとして実施

実施日時 12月14日(土)、15日(日) 10:00～15:00 参加人数 600名(子ども:85名、大人:515名)



## ボランティア・スタッフの声

国立西洋美術館での鑑賞体験をカタチにし、笑顔と共に持ち帰って頂くことができるボランティアアート。老若男女問わず海外の方にも楽しんでいただける、簡単で充実したプログラムは、ボランティアの担当の垣根を越えたアイデアから生まれます。参加者が、思いがけない発想やエピソードなどから作品を創り出す様子を目にするのは大きな喜びですが、短期間で仲間と共に場を開く充実感はクセになる楽しさです。(A.E.)

ボランティアアートの創作における基本コンセプトは、「老若男女問わず、自由に参加ができ、短い時間で簡単に創作、かつ創った人の個性が表れている」。毎回毎回、ボランティアアート当日参加のお客さまは、好奇心に目を輝かせ、真剣に創作に取り組み、できあがった作品はどれも創造性と個性が百花繚乱。感性と創造力豊かな作品、お客さまの笑顔が、私たちボランティアにとって、次回のボランティアアートのエネルギーになります。(O.T.)

# 金曜ナイトトーク

金曜日の夜間開館時<sup>※</sup>に、不定期で開催しているトークです。美術トークを担当するボランティア・スタッフからの提案により、2016年度に始まりました。開催日や時間など、実施方法をボランティア・スタッフ同士で何度も話し合い、トライアルを重ね、開催に至りました。

常設展示室の作品3点を取り上げ、ボランティア・スタッフが1作品10分ずつ、3人のリレー形式でトークを行います。美術トークとは異なる時間帯で開催するため、参加者の中には仕事帰りと思われる方々の姿もあります。

※金曜・土曜日は9:30～20:00開館

## 2020年度～2022年度

実績なし

## 2023年度

実施日程 4月28日、5月19日、6月9日、7月14日、8月25日、10月27日、11月24日、12月8日、1月19日、2月9日、3月1日（※全日金曜日）

実施時間 18:30～19:00

実施回数 11回

参加者数 276名



## 2024年度

実施日程 4月19日、5月24日、6月21日、7月12日、8月23日、9月27日、10月18日、11月15日、12月20日、1月24日、2月7日、3月28日（※全日金曜日）

実施時間 18:30～19:00

実施回数 12回

参加者数 202名

## ボランティア・スタッフの声

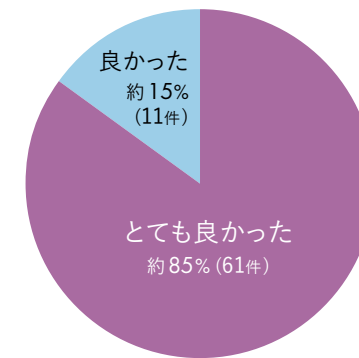
金曜ナイトトークの魅力はなんと言っても3人のトーカーが1人1作品10分というリレー式でトークを行うことです。作品だけでなくそれぞれのトーカーの個性もお楽しみ頂けます。不定期開催にもかかわらずウェブサイトをチェックしてナイトトークを目当てにお越し下さる方も増えてきました。また我々にとっても、仲間同士の貴重な交流の機会となっています！（N.Y.）

ボランティア・スタッフになって、夜の美術館や金曜ナイトトークがあることを知り、今では私自身が金曜ナイトトークのファンとなりました。トップライトがある19世紀ホールや館内は、日中の明るさや空気とは異なり、落ち着いた雰囲気の中で西洋絵画が溶け込み、その中でガイドを聞きながら鑑賞頂いているのが伝わってくる。またリピーターの方がいるのも嬉しく、励みに繋がっている。（I.K.）

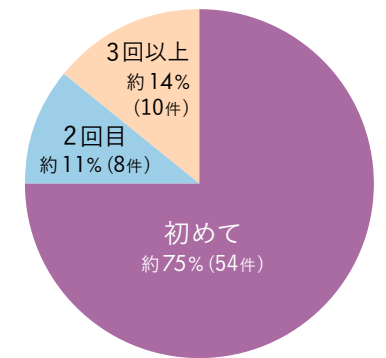
## 参加者アンケート

トーク終了後、参加者を対象にアンケートを実施しています。ここでは2024年度アンケート（回答数72件）から一部抜粋して紹介します。参加者の約4分の1はリピーターの方々です。初めての方ももちろん、2回3回と繰り返し楽しんでくださる参加者も少なくありません。

### 金曜ナイトトークはいかがでしたか。



### 金曜ナイトトークの参加は何回目ですか。



■ とても良かった ■ 良かった ■ 普通 ■ 初めて ■ 2回目 ■ 3回以上  
■ あまり良くなかった ■ 良くなかった

## 参加者の感想

金曜日は遅くまで開館しているので、仕事帰りのご褒美に寄れるのが嬉しい。これからも楽しませて下さい。期待しています。またタイミングが合えばナイトトークに参加したいです！

感動して帰りました。すごいいいです！お一人の説明でなく、3人の方のそれぞれの情熱が感じられて良かったです。また参加したいです。

是非、この小規模なサイズ感と温かい雰囲気を保って続けていただけたらと思います。

# ボランティア・スタッフ名簿

- ・本名簿は、2020～2024年度に活動実績のあったボランティア・スタッフに限り掲載。
- ・期間については、ボランティア候補生として養成研修を受けた期間も含む。

2026年3月時点

A: スクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム B: 美術トーク C: 建築ツアー

## 四期ボランティア・スタッフ

担当	名前	期間	担当	名前	期間
A	浅野 尚代	2016年度～2023年度	C	角川 茂子	2016年度～2023年度
C	猪飼 藍	2016年度～2023年度	A	永井 てるみ	2016年度～2023年度
B	池端 伸浩	2016年度～2023年度	C	中村 喜光	2016年度～2023年度
B	宇野 三奈子	2016年度～2023年度	A	夏目 敬子	2016年度～2023年度
A	大谷 愛子	2016年度～2023年度	A	西岡 啓太	2016年度～2023年度
A	片岡 礼子	2016年度～2023年度	C	野口 真知子	2016年度～2023年度
B	金子 真紀	2016年度～2023年度	A	野村 和子	2016年度～2023年度
A	鎌田 千束	2016年度～2023年度	B	早矢仕 文男	2016年度～2023年度
A	亀山 麻里	2016年度～2023年度	C	原 勲	2016年度～2023年度
B	川崎 博康	2016年度～2022年度	A	福住 久栄	2016年度～2023年度
B	北野 純	2016年度～2023年度	B	淵野 結美子	2016年度～2023年度
A	窪田 光江	2016年度～2023年度	A	牧 幸子	2016年度～2023年度
B	小林 裕美	2016年度～2023年度	C	松浦 芳子	2016年度～2023年度
A	小森 絵美	2016年度～2022年度	C	眞野 晃一	2016年度～2023年度
C	酒井 猛	2016年度～2023年度	A	向山 裕子	2016年度～2023年度
A	島崎 さゆり	2016年度～2023年度	B	山鹿 祐子	2016年度～2023年度
A	清水 悦子	2016年度～2023年度	C	山崎 尚洋	2016年度～2023年度
B	高田 外次	2016年度～2023年度	A	吉田 早苗	2016年度～2023年度
A	高橋 聖子	2016年度～2019年度	C	吉田 小夜子	2016年度～2023年度

## 教育普及室スタッフ名簿

名前	期間	名前	期間
酒井 敦子 (主任研究員)	2017年度～	白濱 恵里子 (特定研究員)	2023年度～
松尾 由子 (特定研究員)	2018年度～2022年度	飯田 有季 (研究補佐員)	2023年度～
大木 章子 (研究補佐員)	2019年度～2023年度	寺島 洋子 (客員研究員)	2024年度～
長谷川 暢子 (研究補佐員)	2020年度～2024年度	今田 睦 (研究補佐員)	2025年度～
秋田 美緒 (任期付研究員)	2022年度～		

## 五期ボランティア・スタッフ

担当	名前	期間	担当	名前	期間
A	東 悦子	2019年度～	A	鈴木 由紀子	2019年度～
B	阿部 廉	2019年度～	A	関 恵子	2019年度～
C	五十嵐 美香	2019年度～2022年度	A	内藤 知子	2019年度～
A	池田 麻美子	2019年度～	B	長井 靖子	2019年度～
A	石川 佐知子	2019年度～	C	中村 茂	2019年度～
A	井野口 知子	2019年度～	B	中山 莉花	2019年度～2021年度
A	岩佐 高明	2019年度～	A	原田 清美	2019年度～
C	角谷 敏昭	2019年度～	A	福泉 裕紀子	2019年度～
B	岸田 裕子	2019年度～	C	前澤 薫	2019年度～
B	甲野 正道	2019年度～	A	向井 由紀	2019年度～2023年度
C	小谷 路世	2019年度～	C	横島 ミサコ	2019年度～
C	鈴木 敦子	2019年度～			

## 六期ボランティア・スタッフ

担当	名前	期間	担当	名前	期間
B	池田 佳南子	2023年度～	B	高田 洋子	2023年度～
C	石毛 正修	2023年度～	C	竹中 裕美子	2023年度～
A	石山 敬子	2023年度～	C	徳重 正子	2023年度～
B	糸賀 あつこ	2023年度～	A	中尾 小絵	2023年度～
A	植草 陽子	2023年度～	A	中村 宗宏	2023年度～
C	大倉 けい子	2023年度～	A	西田 通子	2023年度～
A	大槻 千佳	2023年度～	B	能城 愛	2023年度～
C	大堀 隆嗣	2023年度～	B	畑中 たまき	2023年度～
B	岡田 正宇	2023年度～	C	福良 恵子	2023年度～
A	尾駒 京子	2023年度～	B	真鍋 由紀子	2023年度～
A	坂内 美紀	2023年度～	A	溝上 智恵子	2023年度～
A	佐藤 勝馬	2023年度～	C	森山 宏樹	2023年度～
B	佐藤 美和子	2023年度～	C	矢下 薫	2023年度～
A	塩部 由華	2023年度～	A	山本 めぐ美	2023年度～
A	嶋田 絵里子	2023年度～	C	渡邊 芳彦	2023年度～
B	大藤 悦子	2023年度～			

## 編集を終えて

飯田 有季・今田 睦 | 国立西洋美術館 教育普及室 ボランティア・コーディネーター

本書でまとめた2020年度～2024年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大による予期せぬ活動中止とそれに続く長期休館に伴い、約2年間の活動休止期間がありました。コロナ禍・長期休館後に着任した私にとっては、本書の発行にあたって、この期間におけるボランティア活動の記録を調べ、また当時の教育普及室スタッフに話を聞くことができたのは大変貴重な機会でした。そして、これを乗り越えプログラムを再開するまでの記録をこうして形に残すことができ、うれしく思います。

編集作業を通して、当館の活動はボランティア・スタッフに支えられているのだと、改めて感じました。コロナ禍の先の見えない状況下でも、ボランティア・スタッフのみなさんと教育普及室が二人三脚で歩んできたことが、現在すべてのプログラムが再開できていることに繋がっているのだと思います。

このたびは執筆編集に携われたことに深く感謝いたします。本書が活動記録として残されると同時に、長期にわたる活動休止を乗り越えた当館のボランティア活動を多くの方に知っていただく機会となれば幸いです。

(飯田)

2025年度に着任した私にとって、最初に取り組んだ業務の一つがボランティア活動報告の編集でした。本書にまとめられた2020年度から2024年度の活動には直接関わることができなかったものの、さまざまな記録を読み、写真を見返す中で、いかにボランティア・スタッフが当館にとって大きな存在であるかを強く実感する日々でした。

また2020年以降は、新型コロナウイルス感染症や長期休館の影響もあり、活動を休止せざるを得ない期間もありました。そのような状況を乗り越え、今こうしてさまざまなプログラムを再開できているのは、この5年間の試行錯誤はもちろんのこと、2004年度以来の継続的なボランティア活動の取り組みの土台があったからこそだと実感しています。

執筆編集にあたり、教育普及室スタッフやボランティア・スタッフをはじめ、ご協力いただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。本書を通じて、より多くの方々に当館のボランティア・スタッフの存在と活動を広くお伝えすることができれば幸いです。

(今田)

国立西洋美術館  
ボランティア活動報告  
2020年度～2024年度

発行日 2026年3月26日 ©国立西洋美術館

執筆編集 飯田有季 今田睦  
編集協力 酒井敦子 秋田美緒 白濱恵里子  
アートディレクション+デザイン ララスー・デザイン  
制作 国立西洋美術館 東京都台東区上野公園7-7

印刷・製本 日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社  
ISBN 978-4-907442-47-7

